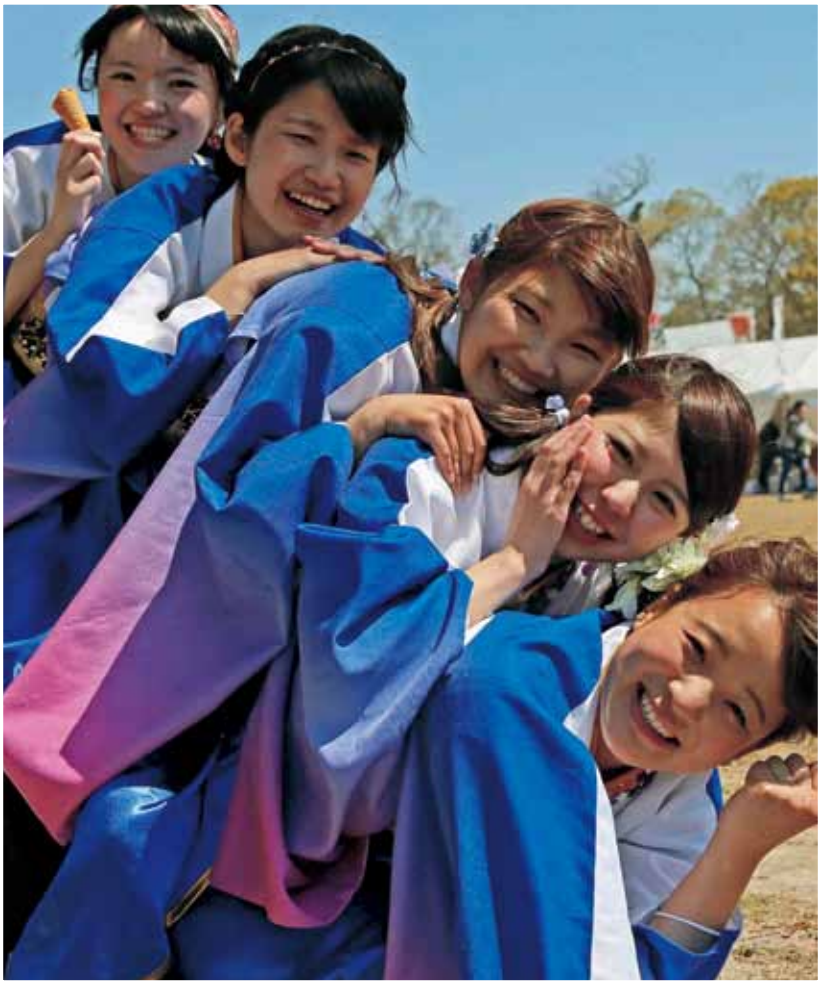
12
December 2016
No.726

熊歯会報

Kumamoto Dental Association

熊本県歯科医師会



平成28年度笑顔ヘルCキャンペーン写真コンクール会長賞「若者たち」　山川 信雄 様

CONTENTS

- 巻頭言（理事　井上 裕邦）……3
- 特集　熊本地震⑦ ……4
- 歯の祭典 ……8
- 笑顔ヘルCキャンペーン ……14
  （中央イベント、 八代、人吉市・球磨郡、水俣・芦北郡市、宇土郡市）
- 理事会報告 ……18
- 報告（勤務歯科医師研修会）……21
- 委員会報告 ……22
  （学術、 地域保健及びセンター・介護、広報、厚生・医療管理、総務・医療連携）
- 郡市会報告 ……29
  （荒尾市、球磨郡、天草郡市、玉名郡市）
- 新入会員 ……31
- つどい ……32
- 会務報告 ……33

― 歯科医師の倫理綱領 ―

われわれ歯科医師は、日頃より歯科医学および歯科医療の研鑽を通じて培った知識や技術をもって、人々の健康の回復と疾病の予防のために貢献するものである。

一、専門職として歯科医学と歯科医療の発展のために尽くし、医療倫理の実践に務める。

一、専門職であることを念頭に、法を遵守し適切な説明を行い、常に愛情を持って患者のために社会的使命を果たすように努める。

一、自己の知識、技術、経験を社会のために提供し、社会福祉および国民の健康向上のために努める。

公益社団法人　日本歯科医師会

表紙に寄せて

今年度の笑顔ヘルC写真コンクール会長賞の写真です。

この他優秀賞１点、奨励賞１点、佳作５点、の計８点を本会ホームページに掲載しています。一度ご覧ください。

（T.K）

患者様本位の医療サービスを！

理事　井　上　裕　邦

前期より２期目の学術担当理事をさせて頂いておりますが、会員の先生方には日頃より学術講演事業にご参加・ご協力いただきありがとうございます。

また、「平成28年熊本地震」におきまして被害に遭われました会員の先生方には改めてお見舞い申し上げます。

先日、福岡で開催された「第23回日本歯科医学会総会」において牛島常務理事が「震災時の歯科保健の重要性～熊本での実践から～」と題し、歯科支援活動内容の報告がなされました。その中で、避難生活直後は義歯の紛失や生活環境の変化による急性炎症が多数の割合を占め、中期以降は誤嚥性肺炎予防のための口腔ケアの重要度が高まるとのことでした。食べるということは生きるためには不可欠です。さらに、食べる為には歯が大切です。実際、私も歯科支援活動に参加しましたが、炊き出しに長い行列ができる中で「入れ歯が痛い」と訴え、歯科ブースを訪れる方に何とか食べられるようにしてあげたいという思いで治療にあたりました。学術担当として、普段は基礎歯科医学や基本的歯科治療あるいは最新情報の講演会を企画しておりますが、日本歯科医師会の「歯科医師の倫理綱領」の一つである「専門職であることを念頭に、法を遵守し適切な説明を行い、常に愛情を持って患者のために社会的使命を果たすように努める」という言葉を改めて考えさせられました。医療対策委員会から毎月報告される医療苦情事例を見ますと、多くは意見の食い違いが発端のようです。患者様は希望を持って来院されます。エビデンスに基づいた正しい説明を行い、患者様の置かれている環境、困っていること、望んでいることなどに耳を傾け、真摯に向き合い、患者様の「希望」に応えることが大切だと感じさせられました。

今後は、医科歯科連携強化を行うために「歯周病と全身の関係」を会員により理解して頂き、周術期での対応、歯周病と糖尿病の関連、歯周病と早産の関連性など地域保健委員会や総務・医療連携委員会等他委員会とも連携し、縦割りではなく県歯全体として医科歯科連携をより強化して医師、行政、県民にアピールすることにより患者への受診行動をおこしていきたいと思っています。

最後に本会で進めております安心・安全歯科医療推進制度の運営委員として会員のためになる事業であり続けるような制度の確立とより多くの県民の皆様に制度を理解していただく為の啓発活動をしていきたいと考えております。日本歯科医師会は総合診療医、専門医を確立するにあたり生涯研修制度の充実による歯科医療の向上を図ろうと考えております。本会でも基礎歯科医学や基本的歯科治療と共に先進歯科医療に関する情報とツールを会員の先生方に発信していきたいと思います。是非、学術講演会をはじめ、様々な講演会・研修会に積極的にご参加いただき基準達成証を取得して頂きたいと思います。

特集 熊本地震⑦

災害時の口腔ケア

引用元出典：Progress in Medicine 36(9), p89-92
執筆：宮坂 圭太・田上 大輔・牛島 隆

はじめに
熊本地震歯科支援活動概要（牛島 隆）

2016年４月14日、午後９時26分に最大である震度７の前震、同月16日未明にも再度震度７の本震が発生した熊本地震は、81人の死者、１人の行方不明者、地震による重軽傷者1,959人の被害者と161,319棟の家屋の被害を出した（７月29日現在）。被害が激しかった益城町や南阿蘇村、西原村などでは、少しずつ仮設住宅の建設が進みつつあるが、多くの方々が今もなお町内の体育館や福祉センターの狭いスペースの中で避難生活を続けている。発災後３カ月半が経過してもなお余震が続き、その回数は1,929回に及んでおり、（７月29日現在）被災者はいまだ不安な日々を過ごしている。

本震翌日には県内855カ所の避難所に約18万人の方々が避難し、それに加えて今回の地震では自主避難所などでの避難や車中泊者が非常に多く、とても実態を把握できる状況ではなかった。したがって初期の段階では行政からの情報はほぼなく、歯科医師会の支援活動は人海戦術によって、歯科医師会会員の近隣避難所の情報を県歯科医師会に上げてもらうことから始めた。深夜の発災で当然着の身着のまま避難しており、断水していて歯も義歯も磨けない状態で何日も過ごしている方ばかりであった。

熊本県歯科医師会からの要請で、口腔ケア用品などの支援物資は全国から続々と集まり、会員の情報を基に、動ける会員が運搬をしながら、避難所の状況を視察、避難者の聞き取り、必要に応じて口腔ケアや義歯の洗浄、治療なども行っていった。

災害のステージも急性期を過ぎると、ようやく実態が少しずつつかめてきたのと同時に、インフラの急ピッチの復旧とともに地域の歯科診療所は、一部を除いて比較的早期に再開することが可能となった。しかし、住宅を失った方や土砂災害により自宅に帰れない方に加えて、終わりのみえない余震が続くことの恐

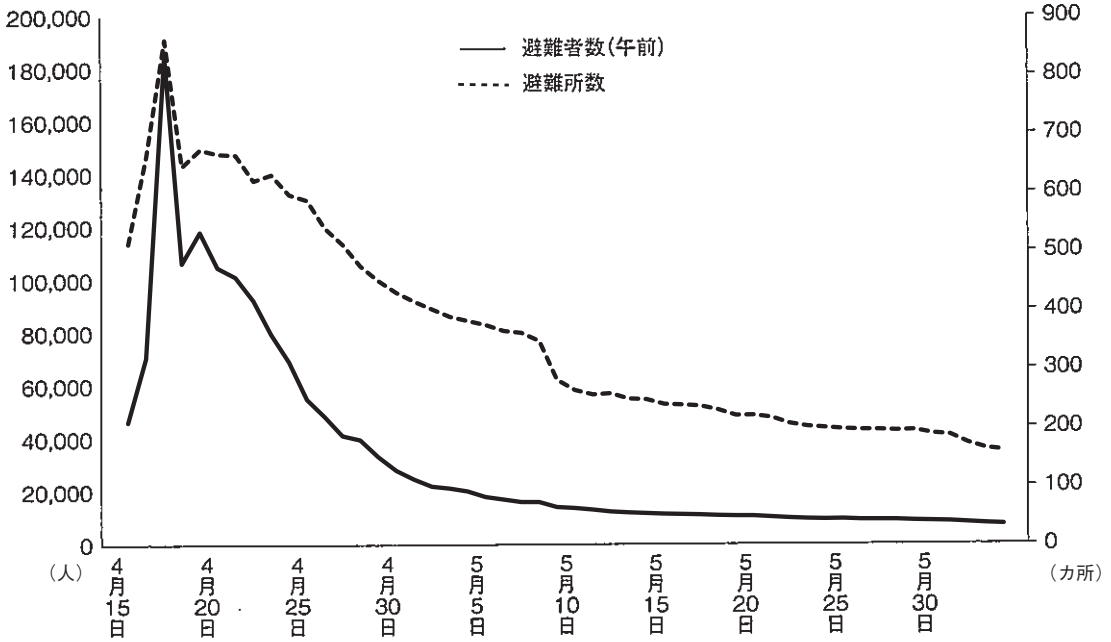


図１　避難所・避難者数の経日変化

怖から避難者がなかなか減少せず（図１）、長期化の様相を呈している状況に対して、われわれは避難所における歯科支援活動は熊本県歯科医師会単独では対応しきれないと判断し、日本歯科医師会を通じて、九州８県でつくる九州地区連合歯科医師会に災害派遣の要請を出した。その結果、４月23日から支援チームが九州各県から次々と熊本県の各被災地に入り、５月22日の派遣終了までの１カ月間で、歯科医師58人、歯科衛生士45人などの方々に支援活動をしていただいた（表１）。また、1995年の阪神大震災以降、災害に対応する医療提供体制は少しずつ整備されてきており、今回も急性期からDMATが285班動員され、また228チームの日赤救護班、その後375チームのJMAT、DPAT、JRAT、薬剤師会災害支援看護師などが初日から活動を始め、特に今回は初めて本格的にJMATなど医療チームと歯科が連携をしていった。地域における他職種との連携は、災害時の医療・保健・福祉の提供には非常に重要で、特に高齢者や障がい者などのいわゆる災害弱者に対しては手厚い支援が必要となる。今回被害が大きかった南阿蘇村と西原村に関する歯科医療支援活動について、それぞれの現場責任者から報告する。

表１　避難所における歯科医療従事者活動者数

歯科医師	1,264人
歯科衛生士	733人
その他	89人

（2016年７月末現在、延べ人数）

南阿蘇地区（南阿蘇村、高森町）歯科支援活動報告（田上 大輔）

種々の生活機能低下・障害が多重的に発生する災害時において、その支援活動は“災害時の総合的生活機能支援活動”といえる。明らかな機能低下が認められない場合でも、「普段自分で管理可能なものが管理しにくくなっている」という点で、被災者全員がフレイルの状態にある。また、歯科診療機能が平時より低下した姿は地元歯科診療所もまた、医療資源としてフレイルのような状態であることを示している。

このように、災害時支援活動は被災者支援であると同時に地元歯科診療所支援でもある。さらに、被災者支援については避難所だけでなく、オーラルフレイルが潜在し口腔内リスクの高い施設入所者や在宅要介護者などの災害弱者に対しても、当初から介入する必要がある。

南阿蘇地区では、日本歯科医師会から九州地区連合歯科医師会への派遣要請に基づき、福岡県、大分県、宮崎県の各歯科医師会・歯科衛生士会、福岡歯科大学、九州大学、九州歯科大学、さらには宮崎県JRATから支援チームが編成され、１週間交代で合計４班が４月23日から５月22日まで活動した。

阿蘇地方災害対策本部の下に設置された南阿蘇村・高森医療救護対策本部の中で歯科支援チームは当初“口腔ケア支援チーム”と称したが、その活動実態に合わせて“口腔機能支援チーム”と自ら改名し、地元歯科医師・歯科衛生士、日本赤十字社やJMAT、JRATやDPAT、保健師や栄養士などとの多様な多職種連携を展開した。チーム撤収後は地元資源による継続的支援活動を展開中である。

口腔機能支援チームが災害地区に駐留しての歯科支援活動

１．被災者支援

１）環境整備・口腔内リスク等の把握

12避難所と17介護施設に対して「レベル２アセスメント（歯科専門職による集団的評価）」と「レベル３アセスメント（歯科専門職による個別的評価）」を総数927件、摂食嚥下評価を69件実施した。その結果をSA（最重要）、A（重要）、B（注意）、C（観察）にトリアージした。

２）アセスメント表に基づく被災者支援活動

誤嚥性肺炎予防を第一目標として、アセスメント結果に基づきポスター掲示・歯科関連物資の補充93件、歯科治療46件、歯科相談14件、口腔ケア252件、保健指導253件、嚥下リハビリテーション12件、摂食指導25件を実施した。

２．地元歯科診療所支援

１）地元歯科診療所の歯科診療機能を復旧させるための支援

歯科支援活動における地元歯科医師の最大任務は「自院の歯科診療機能を発災前の状態に復旧させ、一刻も早く通常診療を行うこと」と定義した。これを口腔機能支援チームと地元歯科医師間の共通認識とし、避難所での歯科治療を必要最小限の応急処置にとどめ、要治療者を地元歯科診療所に52件紹介した。

２）地元歯科診療所が継続的支援活動をスムーズに行えるようにするための支援

口腔機能支援チーム撤収後の地元資源による歯科支援活動は長期化することが予測され、継続的支援活動の質を保ちつつ地元資源の疲弊を防止するための仕組みづくりが重要となる。その一環として、継続介入が必要なハイリスク者を特定し地元歯科医師につなぐためのツール（仮称：災害時要支援者歯科支援継続評価管理表）を試案した。南阿蘇地区では、最終的に特定された11人のハイリスク者に対し治療計画やリハビリプランを作成した後、地元歯科医師による歯科支援継続評価管理表を用いた介入につなげた。

ハイリスク要支援者リスト作り

口腔機能支援チームの撤収間際には、各施設に対して新たな歯科ニーズ、物資不足、かかりつけ歯科医の有無などについての最終確認と地元歯科診療所情報を記載したポスター掲示を行い、地域医療につなぐためのソフトランディングが完了した。

口腔機能支援チームが災害地区を撤退した後の歯科支援活動

地元資源を主体としたハイリスク者への介入を継続中である。また、仮設住宅入居者へは保健師による個別巡回で上がった歯科ニーズを地元歯科コーディネーターに連絡し、地元歯科診療所で対応する形で支援活動を行っている。

上益城郡御船町、阿蘇郡西原村における歯科支援活動（宮坂 圭太）

１．御船町

発災１週間後で避難所33カ所、避難者数2,008人を数えたが、２週間後には避難所23カ所に集約され、避難者数は1,311人となった。水道の復旧とともに１週間程度で地域の歯科医院が機能していたこともあり、当地区では山間部に孤立する公民館などの小規模避難所へのアプローチが最も重要な課題であった。御船町保健センターの保健師の指示のもと各避難所を巡回することになったが、道路崩壊箇所が多く、迂回せざるを得なく困難を極めた。毎日毎日、状況の変わるなか保健センターより避難場所一覧表が配られ、それを埋めていく活動になった。歯科支援チームからの避難所アセスメント（水・物資の充足状況や避難者数など）も重要な情報源として、保健センターに報告した。避難所では通常の歯みがきや義歯洗浄を含む「口腔ケア」は断水、トイレや洗面所の不足などにより、充分にできない状況であった。歯科医師と歯科衛生士の歯科支援チームは、断水のなか、支援の水を積み込んで、子供たちの歯みがきや高齢者の義歯洗浄におわれた。人目を気にして義歯を外すことをしなかった高齢者もいたことは事実で、義歯不潔による歯肉炎、口内炎が多発し、義歯調整と歯肉粘膜への薬剤塗布を頻繁に行った。４月30日（土）をもって地元歯科医チームに支援活動を引き継いだ。

２．西原村

人口7,049人、2,652世帯の西原村は全棟数の35%が全半壊、死者５人という被害を被った。６カ所の避難所人数は799人（５月５日

現在）であった。被災者への対応については、他県自治体からの派遣職員、自衛隊員、民間ボランティアなどに大きく委ねられていた。２カ所の村内歯科医院はダメージが少なく、村内歯科医師は県歯会チームと同行し、避難所巡回に参加してもらい避難所への訪問歯科診療と口腔ケアに尽力してもらった。地元かかりつけ歯科医師に声をかけられると安心する多数の避難者がいた。歯科のニーズは確認できないという判断もされたが、避難所を巡回して被災者に寄り添い、聞き取りを進めて行くうちに、義歯紛失や何日も入れ歯を洗っていないなどの訴えを聞くことができた。歯科支援は村内歯科医師の介入により、スムーズに行われるようになった。５月８日から22日までは他県歯科医師会チームに支援をお願いし、休日は県歯会、地元歯科医師でフォローする形となった。22日をもって、歯科医療チームの撤退と地元歯科医師への引き継ぎを行った。今後は仮設住宅への健康支援を、地元歯科医師と県歯会で見守って行く予定である。

さいごに

発災当初より、南阿蘇地区ではシステマティックなアセスメントや歯科支援が繰り広げられた。一方、益城町のような足の踏み場もない避難所では、入口横に設置した歯科ブースに来訪される方のみの対応に追われる支援であった。他地区の避難所においても、夕食後の介入は制限され、避難所の昼間人数の変化が激しく、要支援者のアセスメントもままならずにいた。発災１カ月後くらいよりようやくハイリスク要支援者のアセスメントができ、地元歯科医師に引き継ぐことができた。避難所現場に支援者とともに、いち早く事務担当者の配置が不可欠であったことは反省点である。

誤嚥性肺炎ゼロを目標

南阿蘇支援チームのデスク

埃っぽく開け放たれた体育館での生活、人の往来のある場所での就寝、車中泊といった、非日常の生活環境の中で断水やプライバシーの確保困難などの問題で口腔内環境の急激な変化は予想できる。「朝・昼パン食のみで喉がパサパサして飲み込みにくくなった」「トイレ事情が悪く、水を飲みたくないので口が渇く」という声も多かった。また、外国製のペットボトルの蓋が薄くて堅く、高齢者の力では開けることができなくて水を飲むのを諦めたといった、想像もつかないことも起きる。高齢者のオーラル・フレイルはこの異常な生活環境に起因すると考えられ、「震災関連の誤嚥性肺炎をゼロに！」を目標に積極的に支援介入することで、目標が達成されたと自負している。また、他職種連携の重要性を痛感したことも確かである。災害時要支援アセスメントについては、日本歯科医師会より派遣された中久木康一（東京医科歯科大大学院助教）を中心に現場支援チームとで策定中であり、経験を生かした提案が出来ることを期待している。

この場をお借りして、熊本の復旧に心を寄せ、力を貸していただいた方々、支援に来ていただいた全国からの専門職チーム、多くのボランティアに感謝します。まだまだですがわれわれは熊本県の復興の力を信じています。

歯の祭典

約220人の参加者であった

11月６日（日）午後１時より、県歯会館４階ホールにて、歯と口の健康週間事業である「歯の祭典」が開催された。参加者は約220人で、震災後にもかかわらず、多くの参加者が来場された。

司会を地域保健委員会の宮本副委員長が担当し、宮坂副会長の開会の辞で幕を開けた。まず主催者を代表して、浦田会長と県健康づくり推進課の坂本弘一課長より挨拶があった。浦田会長は挨拶の中で、今年４月に起こった熊本地震について、各関係団体の支援活動についてお礼と感謝を述べられ、今後も復興に向けて関係各位の取り組みについて話をされた。

浦田会長の挨拶

坂本課長からは受賞者への祝辞、実行委員への謝辞に加え、震災における歯科医師会の活動に対してもお礼を述べられた。また、県下の各学校でフッ化物洗口が前年にも増し、進展している現況を話された。

宮坂副会長の開会の辞

その後、出席者（県体育保健課の西村浩二審議員、県栄養士会の石井孝文会長、県歯科技工士会の川﨑晋二会長、県歯科衛生士会の越川由紀会長）の紹介があった。

表彰式へと移り、まず、最初に「くまもと歯の健康文化賞」の表彰が行われた。今年は、団体の部で県高等学校保健会天草地区養護教諭部会が受賞した。その後、代表者の天草高等学校の山川さおり養護教諭による活動報告があった。当教諭部会では、天草地区において、各学校に合った様々な活動をされていて、普段からの歯と口の健康に対する啓蒙活動が伺えた。

次に、「高齢者のよい歯のコンクール」の表彰が行われた。8020達成者の中で、特に優秀な方を県下全域からの選出であった。今年の入賞者は、県知事賞１人、県歯科医師会賞１人、8020優秀賞３人の計５人であった。そのうちの出席された４人が表彰を受けられた。

その後、歯・口の健康に関する「図画・ポスター、習字」と今回で５回目となる「歯・口の健康啓発標語」の表彰が行われた。これらの部門には県知事賞、県教育委員会賞、県歯科医師会賞の３つの賞があり、それぞれ小学１年生から６年生までの39人（標語は各賞１人ずつ）の子供達が表彰された。表彰時、緊張気味な子供達、その姿を写真やビデオに収めようとする保護者が会場あちこちで見られた。

表彰後、学校歯科委員会の上野委員による「歯に良い話：フッ素ってどの位効果があるの？」の講話があり、実際に卵にフッ素を塗布した実験で、フッ素の耐酸性について大変理解ができた。

その後、昨年よりはじめられた会場参加型の祭典ということで、大林理事より会場の子供たちを対象にクイズ大会「裕ちゃんの歯に良いクイズ」を行った。全13問の歯と口に関する問題で、会場全員対象にクイズを行った。子供たちはその場で起立し、最後まで残った２人が最優秀賞の賞品を、10人弱の子供たちが優秀賞をもらった。それ以外は参加賞となった。

熊本地震での歯科医師会の活動の記録として動画を会場で放映した。ほとんどの方が、会場に残ってこの動画を見て震災に対する、本会と会員の活動と復興への新たな意思を確認した。

最後に、渡辺専務理事より来場者に「これからも歯と口の健康づくり、全身の健康づくりに頑張ってください。」と挨拶があり閉会となった。

（地域保健　赤尾 浩彦）

県歯からの出席者

行政・関係団体からの出席者

くまもと歯の健康文化賞活動報告

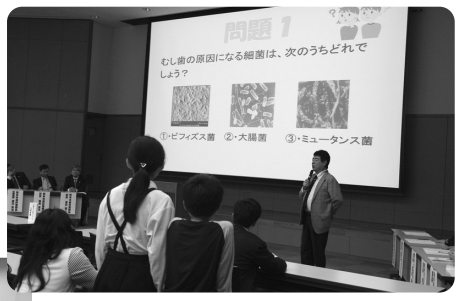
県知事賞表彰

県教育委員会賞表彰

県歯科医師会賞表彰

フッ素についての講話

歯に良いクイズ

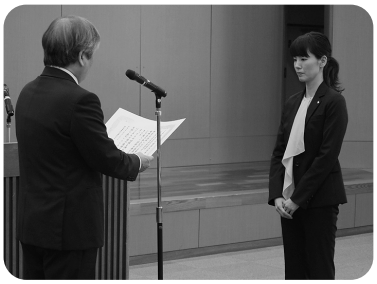


クイズで会場は大いに盛り上がる

渡辺専務理事による閉会の辞

くまもと歯の健康文化賞

団体の部　熊本県高等学校保健会天草地区養護教諭部会 様



受賞の感想

天草地区の健康課題の１つに、むし歯、歯周病があり、天草地区養護教諭部会で歯科保健活動に取り組んできました。

私達が対象にしています高校生にとって、高校は本人が望まなくても健康教育を受けられる最後の場であり、次に親の世代になります。

この受賞を励みに、さらに研鑽を積み、生徒達の将来を見据えた歯科保健活動に取り組んでいきたいと思います。

審査評価

天草地区の県立学校（高校・支援学校）の児童生徒の心身の健全な成長を育成するために日々活動しており、平成23年度からは天草地区すべての県立学校で課題となっていた「う歯の多さ」を改善すべく、天草地区県立学校の歯科保健の実態把握と指導法や啓発方法の研究を行った。

また、学校歯科医や保健センター等との連携、学校間の連携、家庭との連携も図りながら各学校の養護教諭がその学校の特色や実態に沿った、趣向を凝らした指導を行った結果、生徒のう歯に対する意識の向上と天草地区県立学校全体での歯科受診率の増加、未処置歯保有率の減少などの結果がみられた。

さらに、この研究が養護教諭研究協議会で発表されたことで、高等学校、支援学校における歯科指導のモデルとして県内各地の学校への啓発となった。天草地区ではこの研究をもとに現在でも各学校で歯科保健指導を継続している。

このように、天草地区の歯科保健衛生の向上に著しい功績が認められるため、受賞を決定した。

高齢者のよい歯のコンクール

熊本県知事賞　南小国町　井　久米男 様

受賞の感想

本当に受賞すると思ってなかったです。通知を頂いてびっくりしました。これからも健康と歯を大切にしていきたいと思っています。

普段の生活で気をつけていること

朝・昼・夜は歯をかならずみがいています。

みがく前にツマヨウジで取ってからみがいています。

第21回「高齢者のよい歯のコンクール」入賞者

県審査：平成28年９月21日（水）　表彰式：平成28年11月６日（日）

審査結果	郡市名	氏　名	生年月日	年齢
熊本県知事賞	阿蘇郡市	井　久米男	S10.１.12	81
熊本県歯科医師会賞	玉名郡市	谷口　道子	S10.１.15	81
8020優秀賞	熊本市	楠本トシ子	S10.５.10	81
8020優秀賞	人吉市	川辺　恭右	S10.10.20	81
8020優秀賞	天草郡市	吉永　武夫	S10.10.21	81

（※敬称略　※年齢は11月６日現在）

熊本県知事賞

図画・ポスターの部

田端（たばた） 妃愛（くれあ） 様（５年）

福山（ふくやま） 莉愛奈（りおな） 様（１年）　太田（おおた） ゆあ 様（３年）　村山（むらやま） 遥香（はるか） 様（４年）

習字及び標語の部

坂西（さかにし） 英玲菜（えれな） 様（６年）

武田（たけだ） 幸成（ゆきなり） 様（３年）　坂本（さかもと） 聖心（きよみ） 様（１年）　村上（むらかみ） 彪雅（ひゅうが） 様（５年）

大久保（おおくぼ） 妃華（ひめか） 様（６年）

（標語の部）

※熊本県知事賞の作品は、熊本県歯科医師会のホームページに審査員のコメント付きで掲載されています。

熊本県教育委員会賞

図画・ポスターの部

坂本 湧紀（さかもと ゆうき）様（５年）　宮本 くるみ（みやもと）様（４年）

上村 美月（うえむら みづき）様（３年）　槌田 莉子（つちだ りこ）様（２年）　田所 希美（たどころ のぞみ）様（１年）

習字及び標語の部

望月 蘭（もちづき らん）様（６年）　古谷 心愛（ふるや ここあ）様（５年）　本山 蓮（もとやま れん）様（４年）

本村 月渚（もとむら るな）様（３年）　宮﨑 咲希（みやざき さき）様（２年）　本山 果凛（もとやま かりん）様（１年）

池田 麗乃（いけだ れの）様（６年）

（標語の部）

熊本県歯科医師会賞

図画・ポスターの部

池田 愛海（いけだ あいみ） 様（6年）　濵口 衿名（はまぐち えりな） 様（5年）

早川 達哉（はやかわ たつや） 様（4年）　脇山 幸志（わきやま こうし） 様（3年）　益田 梨央奈（ますだ りおな） 様（2年）

習字及び標語の部

佐々木 晃誠（ささき こうせい） 様（6年）　中村 柚月（なかむら ゆづき） 様（5年）　徳永 龍之介（とくなが りゅうのすけ） 様（4年）

木村 純大（きむら じゅんだい） 様（3年）　河野 未來（かわの みらい） 様（2年）　山下 菜緒（やました なお） 様（1年）

笑顔ヘルＣキャンペーン

― 中央イベント ―

11月６日（日）午前11時から午後４時まで、上通びぷれす広場において「笑顔ヘルＣキャンペーン　中央イベント」が、本会と熊本日日新聞社の主催、県歯科衛生士会の共催、熊本県の後援、㈱花王の協力の下、開催された。

このイベントは「180万人熊本県民お口の健康運動」として歯の健康の重要性に関する啓発と健康維持に必要な正しい知識の普及を図ることを目的とし、11月８日の「いい歯の日」に合わせて毎年開催し、今年で21回目となる。

会場では、浦田会長の挨拶に始まり、街頭での歯科に関するアンケート、歯科相談、口臭チェック、歯磨き指導、熊本歯科衛生士専門学院の紹介、ヘルC写真コンクール作品展示を行った。また、設置された演台では、紙芝居、人形劇、輪投げを一般公開形式で行った。

アンケートでは1,150人の回答を得て、「8020運動」を知らない、「かかりつけ歯科医院」が無い、「定期的に歯科受診」していない等の回答も少なからず見受けられ、さらなる歯科啓発の必要性を感じた。

今年は熊本地震が起こり、開催が危ぶまれたが、関係各団体の多大なるご協力により例年通りイベントが開催され、歯科的健康の重要性が大いにアピールできたイベントとなった。

（地域保健　小田 哲也）

浦田会長の挨拶

アンケートを記入する親子連れ

歯科医師による歯科相談コーナー

歯科衛生士による歯磨き指導・口臭チェック

イベントをＰＲする学院生

歯の模型に興味津々の子供達

ヘルＣ写真コンクール作品展示

輪投げにチャレンジ

毎年恒例の人形劇

フッソマンによるフッ素塗布

宮坂副会長の閉会の辞

八　代　熊本地震後　初めての歯科相談

10月１日（土）午前10時から午後３時まで、八代市ふれあいフェスタ（主催：八代市・八代市社会福祉協議会）の会場内で、笑顔ヘルCキャンペーン・歯科相談健診を行った。

毎年歯と口の健康週間のときに開催していた歯の祭典が熊本地震の影響で中止になったため、今年度初めての歯科相談となった。例年通りやつしろハーモニーホールの３階の会議室を使って、健康推進課のおこなうヘルスアップコーナー（主に体組成測定・血管年齢測定・骨密度測定ほか食事指導・禁煙相談・認知症状相談などの内容）の隣室で2007年よりヘルスアップコーナーを訪れた人たちの中で歯科のコーナーを希望する方に相談・健診を行っている。

４月の地震のあと八代歯会でも避難所をめぐり、歯ブラシや歯磨き粉、紙コップなどを提供したが、誤嚥性肺炎の問題など口腔ケアの重大性は住民の皆さんにもかなり認識されたと思う。そういう点も含め今年度初めての歯科相談とのことで来場者数が期待されたが、例年より少ない68人（大人51人、子ども17人）にとどまった。会場の関係で従来の時期より

相談・健診にていねいに対応

１か月早い日時であったことや、市民への告知が充分ではなかったことが来場者数の減少に関係していると考えられ、また成人の来場者のほとんどが60歳以上でありこのあたりのことも今後の課題と思われる。

しかしながら来場者が多くなかったおかげで、ひとりひとりに時間をかけてお話を聞くことができ、ていねいに対応できたようにも思える。歯科衛生士会にお願いしたブラッシング指導も熱心に行われていた。来年度は６月の歯の祭典が無事行われ大盛況になることを祈る。

（高田　博樹）

人吉市・球磨郡　野外テントでの歯科相談

10月16日（日）に、“第５回とっておきの音楽祭inひとよし”で人吉市・球磨郡歯会合同で歯科相談を行った。歯科としての来場者は63人だった。

“とっておきの音楽祭inひとよし”は、人吉市九日町一帯の屋外で行われ、歯科相談も野外テントでの活動だった。

今回の歯科相談は歯科医師会の単独開催ではなく、糖尿病予防普及啓発体験・相談コーナーの一部として参加した。この体験・相談コーナーは、人吉球磨糖尿病予防フォーラム（保健所内）実行委員会が主催である。

人吉球磨地域は糖尿病の患者が多い地域で、その患者の対応ため糖尿病フォーラムや糖尿病予防を目的とした各種団体（医療系、学校）が参加する糖尿病予防フォーラムがあり、その糖尿病予防フォーラムで毎年人の集まる場所での活動が、今回の体験・相談コーナーである。

今回の体験・相談コーナーの活動内容は、熊本大学代謝内科学の本島准教授による健康相談・指導、薬剤師会によるお薬相談、看護

糖尿病と歯周病の相互関係をアピール

師会による体脂肪測定、栄養士会による栄養相談、理学療法士会による体力測定、検査技師会による自己血糖測定、学校保健会による血圧測定などその他多くの団体の協力により運営された。中にはご当地ヒーローのジグリッターでの参加団体もあった。

今後とも、糖尿病と歯科との関わりを啓発していこうと思う。

（相良　吉正）

水俣・芦北郡市　盛況だった水俣市健康まつり

9月21日（木）午前9時30分より午後3時まで水俣市もやい館にて地元の医師会・薬剤師会・歯科衛生士会・看護協会・栄養士会・理学療法士会・作業療法士会・在宅支援部会・グリーンコープ生協・地域動物愛護推進協議会・婦人会などの関係団体が参加し、「水俣市健康まつり」が開催された。

歯科医師会と歯科衛生士会は歯科相談とフッ素塗布を行った。また8020達成者の審査・表彰、キラキラハッピーコンテスト（親と子の歯のコンテスト）の表彰も行った。

開始前より行列ができ、終了時間まで人が途切れることなく忙しい1日だった。健診・相談は例年通り女性が多く、受ける方は口腔内の状態は比較的良く、口腔内に関心を持ち日ごろから歯科医院を通院しメンテナンスを受けている方も多くみられた。

親子で相談

（伊藤　延隆）

宇土郡市　歯周病や歯並びに関心が高い来場者

11月5日（土）午後2時から5時まで、宇土シティーモール1階イベント広場にて笑顔ヘルCキャンペーンが行われた。歯科相談、口腔内細菌の観察、口臭測定などが行われ、土曜日ということもあり、親子を中心にたくさんの来場があった。

口臭測定ブースでは、初めはやや遠巻きにこちらの様子を見ている方が多かったが、1人目が勇気を持って測定を始めると、女性を中心に次々と測定を希望され、盛況であった。口臭を測定後はそれぞれの気になられる点の相談を受けた。メンテナンスの頻度や歯周病についての質問が多い印象であった。また、親子で参加された方は、子供さんの歯並びについての質問が多かったように感じられた。歯医者に行くまでではないが聞いてみたかったことを聞くことができ参考になったようである。歯科の潜在的な需要はまだまだありそうなので、地域に貢献できるよう研鑽の思いを新たにした。

今回はこのイベントに、「うとん行長しゃん」と、「きくちくん」にも参加していただいた。「うとん行長しゃん」は、宇土城主の小西行長から由来している宇土市のゆるキャラで、宇土のうまかもんが大好きとのこと。頻繁に宇土産の食材を口にしており、メタボとむし歯に気をつけているとのこと。一方、きくちくんは菊池市の非公認キャラで、熊本弁をしゃべるのが最大の特徴。菊池米、メロンなどをよく食べるとのこと。食後のブラッシング等の話題を中心にきくちくんと、行長しゃん（の御付のスタッフ）で会場を盛り上げてもらった。

会場を盛り上げるゆるキャラ2人

（近藤　俊輔）

理事会報告

先を見据えた対応を

― 第18回理事会 ―

10月26日（水）午後７時より県歯会館において、浦田会長他全役員、伊藤学院長の出席のもと開催された。

１．開会：小島副会長

２．挨拶：浦田会長

21日（金）に鳥取県中部を震源とする最大震度６弱の地震が発生しました。地震発生当時、私は日本歯科医学会総会に出席していましたが、その会場でこのことを知りました。その後、鳥取県歯会会長と電話で話しましたが、会員の先生方10名程が被害に遭われたとのことでした。今週中にはライフラインが復旧して、診療が再開できる見通しと聞いております。被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。これから、日本全国いつどこで大規模な地震が発生するか分かりませんが、我々も震災を経験した者として何かできることがあればすぐに対応して参りたいと思います。それから、先週は福岡県で日本歯科医学会総会、九州歯科医学大会が開催され、日本歯科医学会総会では山中伸弥京都大学教授、向井千秋東京理科大学特任副学長の素晴らしいお話を聞くことができましたし、九州歯科医学大会では、大久保満男元日歯会長、辻哲夫東京大学特任教授、ジャズシンガーの綾戸智恵氏のシンポジウムがあり、非常に興味深くためになるものでありました。ところで本年もあと２ヵ月余りとなり、来年度の予算編成の時期となってまいりました。役員の皆様方は各事業で多忙な中で、先を見据えた対応をしていただきたいと思います。さらに、本日は重要な案件であります中小企業等グループ補助金関連についてもご協議いただきますので、しっかりと会員の方々の復旧・復興を後押しできるよう、慎重審議の程よろしくお願い申し上げます。

３．議長選出：浦田会長

４．議事録署名人：久々山監事、西野監事、浦田会長

５．平成28年度会務報告：

（自：９月27日～至：10月23日）

本会総務：理事会、常務理事会、社会歯科学会秋期研修会、日本歯科医学会総会、九州歯科医学大会

学　　術：九州各県学術担当者会

社会保険：九州各県社会保険担当者会

地域保健、センター・介護

：九州各県地域保健及びセンター・介護担当者会

広　　報：九州各県広報担当者会、『熊歯会報』11月号の編集・校正

厚生・医療管理

：九州各県厚生担当者会、九州各県医療管理担当者会

総務・医療連携

：口のリハビリテーション医科歯科連携インストラクター養成講習会

学　　院：学生合同就職説明会、高校推薦・指定校推薦入学試験

国保組合：理事会、全歯連通常総会

以上、各担当役員より報告がなされた。

６．報告事項：

１．人事

・熊本県歯科医師会理事（冨屋栄祐会員）の辞任　９月29日付（９月30日法務局登記完了）

今後の委員会体制として、小島副会長が医療対策委員会理事の職務を代行する。

2．表彰

・文部科学大臣表彰

田代 正博会員（阿蘇郡市）

表彰式：10月27日(木)「平成28年度全国学校保健・安全研究大会」

場　所：札幌コンベンションセンター

・(第80回全国大会特別記念)文部科学大臣表彰　原賀 滋久会員（山鹿市）

表彰式：11月16日(水)「第80回全国学校歯科保健研究大会」

場　所：東京・文京シビックホール

・平成28年度熊本県高等学校保健功労表彰

古賀 明会員（熊本市）

熊埜御堂 渉会員（人吉市）

冨永 祐司会員（熊本市）

表彰式：１月20日(金)「熊本県高等学校保健研究協議大会」

・日本学校歯科医会会長表彰

齊藤 健会員（熊本市）

椿 幸雄会員（熊本市）

表彰式：３月22日(水)「日学歯総会」

場　所：日歯会館

3．退会会員

・故　出口 瑞男会員（終身／熊本市）

81歳　９月13日ご逝去

・水野 完治会員（第１種／熊本市）

９月30日付閉院のため

4．平成28年度地域医療総合確保基金の進捗状況

在宅歯科診療機材整備事業については、63名の会員より総額64,198,154円の希望器材が提出され、10月20日(木）に熊本県に提出した。今後は熊本県と担当役員との協議により認定申請者を決定する。

5．平成28年度災害歯科コーディネーター研修会の運営

12月23日(金・祝）に県歯会館で開催される。

6．「わははは 歯っぴー ほっこり お茶会」

仮設住宅において孤立者を防ぐ目的で、10月２日(日）に大津町の仮設住宅集会所でお茶会が開催された。

7．中小企業等グループ補助金の申請状況

第２次公募１次締切の結果は、154人(辞退者４人)、補助事業に要する経費117,075万円、補助金申請予定額84,474万円であった。さらに、第２次公募２次締切のスケジュールについて報告がなされた。

8．平成28年度各委員会概算要求協議日程

日程の確認が行われた。

9．熊本県学校保健会協力寄附金

今年度の寄附金の総額について報告された。

10．熊大医学部120周年記念特集協賛広告掲載内容

広告掲載内容について報告がなされた。

11．平成28年度厚生労働科学研究費補助金(地域医療基盤開発推進研究事業)「歯科ユニット給水システム純水化装置の開発に関する研究」におけるアンケート調査へのご協力のお願い

アンケート調査に協力する。対象者として、役員13名と担当委員会のあわせて14名を日歯に報告する。

12．平成28年度シニア倶楽部社会保険研修会・シニア倶楽部

10月29日(土）午後４時より社会保険研修会、午後６時よりシニア倶楽部が開催される。

13．事業企画書

・社会保険委員会：『社会保険講演会』

（１月29日）

14．会計９月末現況

15．その他

・第69回九州歯科医学大会の際における義援金受渡式

10月23日(日）に前岩手県歯会会長と日本歯科医学会総会会頭から熊本地震に対する義援金が伝達された。

7．連絡事項：

1．平成29年度会長予備選挙・役員等選挙日程

平成29年度の会長予備選挙期日（開票日）が平成29年３月25日(土)、役員等選挙が平成29年６月17日(土）の定時代議員会で実施する。

2．３月開催の臨時代議員会までのスケジュール

3．平成28年度新入会員研修会懇親会の出席者

全役員及び27名の新入会員に案内を出す。

4．11月行事予定

8．承認事項：

1．新入会員の承認〔承認〕

平良 幸治（第１種／菊池郡市）、鎌田 政彦（第１種／下益城郡）、千原 理絵（第３種）の入会を承認した。

※28年度入会状況（10月末現在）：第１種･13名、第２種･３名、第３種･１名

2．第10回熊本県医療・保健・福祉連携学会の賛助金〔承認〕

賛助金として５万円を支出することを承認した。

3．平成28年度熊本地震における歯科医療支援に関する協議会の設置〔承認〕

九地連に設置される協議会のメーリングリストに渡辺専務理事、牛島常務理事、奥村課長を登録することを承認した。

4．診療所の罹災証明書に基づく会費・共済互助負担金免除会員の認定〔承認〕

新たに１名を認定することを承認した。

9．議題：

1．平成29年度第２回九地連協議会の開催期日・会場〔承認〕

開催期日・会場について承認した。

開催期日：平成30年２月17日（土）午後２時～、会場：ホテル日航熊本

2．自民党県連主催「チームくまもとに対する要望聴取会」への要望〔承認〕

テーマを障がい者歯科診療、学院、仮設住宅集会所に絞って要望をまとめることを承認した。

3．平成28年度二地区歯科医師会役員連絡協議会協議題〔承認〕

協議題の回答内容について承認し、当日、口頭で回答することとした。

4．平成28年度熊本県委託（補助）事業に係る予算〔承認〕

・医科歯科病診連携推進事業（回復期）予算明細書（案）

・医科歯科病診連携推進事業（がん診療）予算明細書（案）

原案どおり承認した。

5．「いい歯の日」企画　熊日新聞広告掲載内容〔承認〕

内容について原案のとおり承認した。

6．その他

・グループ補助金に係るユース会計社との業務委託契約の締結〔承認〕

ユース会計社への委託料金として、補助金交付決定額に関わらず、定額で契約することが承認された。また、第２次公募第２次締切分を取りまとめたが、今後の取り扱いについて、本会がグループの代表者となっての取りまとめは次回の公募分までとする。

10．協議事項：

1．地域医療構想の策定〔承認〕

地域医療構想の素案に入れ込むべき歯科項目について、歯科医療提供体制の基本的考え方を修正し、各項目を精査し、10月末までに提示する。

11．監事講評：

12．閉会：中嶋副会長

（広報　竹下 憲治）

お知らせ

熊本県歯科医師会創立110周年記念式典・祝賀会
（歯科医師国保60周年・歯科衛生士学院55周年・歯科医師連盟65周年）

開 催 日 ： 平成29年５月20日（土）

会　　場 ： ホテル日航熊本　５階

特別講演　（午後３時～４時30分・天草）

「なぜ今医科歯科連携が求められるのか？その源は幕末にあり」

東京歯科大学短期大学　石井 拓男　学長

記念式典　（午後５時～５時50分・天草）

祝 賀 会　（午後６時～８時・阿蘇）

報 告　歯科医師会入会につながる取り組み

― 第１回勤務歯科医師研修会 ―

10月８日（土）午後４時より、県歯会館３階研修室にて、第１回勤務歯科医師研修会が開催され、勤務歯科医師15人の参加があった。浦田会長より今回の熊本地震による県歯科医師会の活動報告、義援金、グループ補助金等会員への支援について挨拶があった。

今回の研修は下記３人の講師に講演していただいた。

研修　⑴「歯科界の現状」―勤務歯科医に伝えたいこと―
UKデンタルマーケティング室
溝田 勝基　室長
⑵医療事故・医療苦情への本会の対応
医療対策委員会　岡田 長久　委員長
⑶熊本県歯科医師会の医療連携事業
牛島 隆　常務理事

研修⑴では、１、開業相談　２、節税・リニューアル相談　３、経営分析と改善提案という話から始まり開業準備に必要な期間、診療圏調査のポイントとして周囲の歯科医院数と対象人口から推計患者数を割り出し、推計患者数が20人以上を目安としている。また診療圏調査は新規開業だけではなく継承する場合も行うと参考になることを述べられた。

開業日からアポイントをとる方策として内覧会を実施する。（新規開業の99％ぐらいがおこなっている。）ホームページを開業前から作成すると患者さん以外にもスタッフを募集する際にも有効である。（ホームページを見て面接に来るため）

次に研修⑵では、会員の医療行為中に発生した事故の事後処理と医事紛争進展への予防を目的とし、事故の調査及びその予防対策、相手方との解決に向けての交渉、調停や裁判における助言協力、保険会社及び弁護士との協議等の事業を行っていることを話された。さらに事故受付の一連の流れを説明され、最後に医療苦情の相談件数や事例内容（歯科医院の対応・態度、説明不足、治療内容の説明、料金の問題）等日常臨床において注意すべき点が述べられた。

歯科界の現状を語る溝田室長

研修⑶では、早産予防対策事業について本県は早産が原因で生まれる極低出生体重児の割合が高い状況が続いていた。そこでモデル事業として妊婦歯科健診・指導を通じた歯周病対策によって低体重児数の減少につながったことの話があった。

次に糖尿病・歯周病医療連携について医科歯科相互に紹介するシステムを構築し、歯周病治療することでHbA1cが減少し、糖尿病の重症化や合併症予防につながることを説明された。さらに回復期病診連携事業について、回復期病院では口にトラブルを抱える患者さんが多く、歯科が介入し患者さんの口腔の機能回復をすることで早期離床につながるとのこと、今後この事業を県下全域に広げていきたいと説明があった。

がん医科歯科連携事業については、現在23病院と連携しており会員に占める連携登録歯科医の数において熊本県は全国で１、２位ぐらいの多さだと話があった。

最後に渡辺専務理事より歯科医師会に入会することによる様々なメリットを説明し終了した。

（理事　宇治 信博）

委員会報告

医療歯科連携、経費削減の項目に関心が集まる

― 九州各県学術担当者会 ―

学術

10月１日（土）午後２時より福岡県歯会館において、九州各県学術担当者会議が開催された。日歯より小林常務理事をお迎えし、福岡県歯会の長谷会長、学術委員７人およびその他の各県の学術担当者２人ずつの合計23人の出席があった。本県からは井上理事と堀川が出席した。

竹下福岡県歯理事の開会の挨拶、長谷福岡県歯会会長さらに小林日歯常務理事より挨拶が行われた後、本年担当県の竹下理事ならびに次年度の担当県の和田大分県歯理事が議長及び副議長にそれぞれ選出され会議が開始された。

はじめに、小林日歯常務理事より日歯報告が行われた。28年度の生涯研修・セミナーの実施状況、教材コンテンツ閲覧数、Ｅシステムの利用マニュアル、そして歯科医師の資質向上に関する検討会の開催とその内容について途中段階との事であると触れられた。昨今の社会の変遷に伴いより侵襲度の高いハイリスク患者に対応できる歯科医師のニーズが高まっており、将来に渡る能動的な自己研鑽が必要とした上で、現在の各団体ごとに行われている研修者の到達レベルが異なる研修の場では問題があるためそれぞれを連携し一貫して取り組む体制をめざしていく方向で検討している事、そして現在各学会で認定されている専門医制度については客観的な評価方法を取り入れて新制度を運営しなければ国民の指標とならないとし、日歯生涯研修制度を絡めて制度の活用を促して行く事、さらに基準をクリアーした施設には保険点数の加算項目を設ける事など、専門性に関する考え方の試案を説明された。報告は130ページ余りの資料を使って約30分にわたり行われた。

続いて各県が事前に提出した10項目の協議事項について、提案理由と各県からの回答を一つ一つ丁寧に議論された。①保険診療における施設基準の届け出に必要な研修会の開催（佐賀県）②CAD/CAM冠に関する講習会（佐賀県）③医科歯科連携（長崎県）④他職種連携に関する講習会等（大分県）⑤経費削減による事業内容の見直し（熊本県）⑥国体開催の準備としてのスポーツデンティストの役割や準備（宮崎県）⑦会員の学術向上のために行っている研修会（沖縄県）⑧学術研修事業の効率的開催（鹿児島県）⑨Skypeの活用（鹿児島県）⑩睡眠時無呼吸症候群患者に用いる口腔内装置の効果ならびにその評価（沖縄県）。

熊本地震に際して各県からの多大なる支援にお礼を述べる井上理事

協議は医科歯科連携に関する項目や経費削減に関して多くの質疑がなされ、予定時間を10分間延長してしまうほどであった。各県共通した課題を抱えている事を認識した。

最後に、日歯への10の質問に関して、各県から提案理由の説明の後に小林常務理事から丁寧な回答を受けた。出された質問内容は以下の内容であった。①総合歯科診療専門医の今後の方向性（佐賀県）②スポーツデンティストの啓蒙（長崎県）③日歯生涯研修事業のモチベーションを上げるための対応（熊本県）④歯科衛生士、歯科技工士、歯科助手等向けのDVD作成（熊本県）⑤日本歯科衛生士会、

日本歯科技工士会と連携した合同講演会の開催（宮崎県）⑥Ｅシステムの利用促進（鹿児島県）⑦睡眠時無呼吸症候群に対する口腔内装置の効果確認（沖縄県）⑧日歯生涯研修の単位を利用した歯科総合医の新設（福岡県）⑨広報可能な専門性に関する資格（福岡県）⑩学校が設ける専門的資格（福岡県）。

内容の多くは、冒頭の報告に含まれており、10分ほどの短い時間で議論を終了する展開となった。途中、井上理事より、熊本地震に際しての各県からの多大なる支援のお礼と現在の状況の報告がなされた。田代福岡県歯理事の閉会にて会議を終了した。

（学術　堀川 正）

委員会報告

熱かった意見交換会

― 九州各県地域保健及びセンター・介護担当者会 ―

地域保健、センター・介護

10月１日（土）午後２時より宮崎県歯会館にて九州各県地域保健及びセンター・介護担当者会が開催された。

この会議では、九州各県地域保健・産業保健の現在の各種事業に対する取り組みと状況報告および日歯に対する質問などが行われた。

日歯からは高野常務理事と吉井理事を招いて開催された。

まず、４階ホールにて全体会を行った後、そのまま４階ホールにて分科会Ⅰ（地域保健・産業保健）、また３階会議室にて分科会Ⅱ（要介護老人・障がい者）に分かれて、それぞれ白熱した議論がなされた。

全体会では、重城宮崎県歯会長より地元開催の挨拶があった後、高野日歯常務理事より、平成28年から翌年にかけての地域医療および介護関連事業の重要課題、構想計画、予算等について概略説明と日歯に対する様々な質問に対して回答された。

また今年度発生した「平成28年熊本地震」について赤尾理事が報告した。

その他、それぞれ協議した主な内容については、以下の通り、報告する。

【全体会】

協議⑴日歯への質問・要望

①日歯地域保健委員会の活動優先順序

様々なテーマについて話し合う

②特定健診、特定保健指導への取り組み

③糖尿病性腎症化予防プログラムに対する日歯の今後の事業展開

④「平成28年熊本地震」での歯科関連救援活動に関する中間総括

⑤認知症対応力向上研修会における今後の事業展開

⑵各県提出協議題

①大規模災害における各県歯会の体制や会員への活動研修などの状況と医療関係機関との連携状況

②災害時の口腔保健センターの役割

③医科歯科連携の現況と今後の展望

④地域医療介護総合確保基金に関する本年度の他県のアイデア

⑤各県地域保健担当者への連絡や質問・回答を行うツール

熊本地震について報告する赤尾理事

【分科会Ⅰ】

（座長：佐野宮崎県歯理事、副座長：赤尾理事）協議⑴学童期におけるフッ化物洗口推進事業の実施率（洗口希望者）の増減　⑵生活歯援プログラムの活用　⑶特定健康診査・特定保健活動（特に自治体健診）における歯科健診・保健指導の実施状況　⑷事業所健診の受診率を向上させる工夫　⑸後期高齢者の歯科健診、実施状況、結果およびCPIの判定基準　⑹糖尿病における医科歯科医療連携　⑺口腔がん健診の実態と健診マニュアルの有無

【分科会Ⅱ】

（座長：青山宮崎県歯理事　副座長：平井委員長）協議⑴障がい者、障がい児の健診事業　⑵在宅障がい者の実態把握　⑶障がい者歯科に関する委託事業　⑷一般開業医の障がい者受け入れ体制　⑸各県の在宅障害児（者）の訪問診療の現状　⑹障がい者団体とのネットワーク　⑺障害者差別解消法の対応　⑻難病者の口腔保健事業等

以上、今年度も多種多岐にわたり様々なテーマについて協議がなされ、予定時間を20分程オーバーする白熱した会議となったが、最後は河崎宮崎県歯副会長の閉会の辞で終了した。

今回、今後の日本の歯科医療界の方向性を担う日歯の姿勢についての確認と九州各県の各種事業に対する取り組み方や努力が垣間見られた、とても有意義な会であった。

来年度は本県で開催されるので、より良い会となるようにしっかりと準備して行きたい。

（地域保健　二宮 健郎）

委員会報告

会員にとってもっと魅力的な広報誌へ

― 九州各県広報担当者会 ―

広報

10月１日（土）午後２時より県歯会館４階ホールにて、九州各県広報担当者会が開催された。宮坂副会長の開会の辞に始まり、浦田会長、続いて中西日歯理事より挨拶があった。座長に八木常務理事、副座長に安楽宮崎県歯理事が選出された後に中西日歯理事より日歯報告が行われた。

協議

⑴　平成28年度各県広報関係事業計画及び予算

⑵　各県提出議題

１、災害時における歯科医師会広報としての対応

２、緊急災害時の連絡手段

様々な議題で意見交換

３、大規模災害時の広報委員会の活動

４、対外的情報の発信、発信源の統一化

５、会員以外の記事執筆者

６、市民からの要望や声を受け入れる体制

会報を読んでもらうために様々なヒントを頂く

7、著名人との歯科に関する対談記事
8、歯科医師会会立の学校や口腔保健センターなどの情報の効果的PR
9、広報関連委員会の活動
10、歯科衛生士の需給に対し広報の関わり方
11、ホームページを充実させるための取り組み

⑶　日歯への要望及び質問

上記協議が行われた。

各県提出議題1、2、3に関して本県の震災対応に関心が集まった。「本県における今回の熊本地震への対応」の「回答」

幸いなことに会館の被害が軽微ですべての通信手段が使える状況にあり、主に電話やファックスにて会員の被害状況の確認に努めた。会員診療所の固定電話やファックスの破損等によって通信網が途絶えたところもあり、そういうところは材料商組合や、メーカーとも連携して被災状況を把握。会員診療所の診療可否の情報を静岡県歯科医師会の協力により、「熊本県歯科医師会災害時マップ」としてホームページに掲載した。緊急災害時の連絡手段としてLINEが効果的であった。

6、10に関しても活発な意見交換がなされた。6に関して鹿児島県では年1回「県民歯科会議」を開催、一般の方から医師、薬剤師、など有識者18人を選定して、県役員との意見交換が行われているとの事。

10に関して大分県では未就業歯科衛生士登録事業に登録した歯科衛生士の名簿を、歯科衛生士会が保管。職業斡旋には資格が必要なので、歯科衛生士会の事務所で名簿を閲覧してもらい、歯科医師が直接連絡をするという方法をとっているとの事。

日歯への質問

歯と口の健康週間の期間が1週間しかないので、そこによ坊さんの着ぐるみの貸し出しが集中して、借りることができず、期間が1か月ほどあればその問題が解決するので、延長は可能かとの要望が出されたが、厚労省、文科省など行政を動かして納得させるのは難しいとのことであった。又九州以外の県からの情報をできるだけ多く得るための活動や行動についてはネットを利用して疑問点などを挙げて、それに対して各県が答えると良いのではないかとの回答であった。

協議終了後、熊本日日新聞社NIE専門委員の越地真一郎氏による「『伝える』から『伝わる』へ」－自らを磨き、相手に届く情報発信術－という演題で講演が行われた。講演の中で会員に会報を読んでもらうための様々なヒントを頂き、広報を担当する者にとって大変勉強になる講演であった。九州各県の広報誌の良い点、改善する点を詳しく解説して頂いた。予算の関係等で全てにおいて改善するのは難しいが、出来る範囲で会員が関心をもつ広報誌を目指したい。

講演終了後、次期開催県である安楽宮崎県歯理事による挨拶があり、続いて渡辺専務理事の閉会の辞で会議は終了した。

（広報　永廣 有伸）

委員会報告

双方にとってよい機会

― 学生合同就職説明会 ―

厚生・医療管理

10月２日（日）午前10時より県歯会館４階ホールにて、学生合同就職説明会が行われた。

この就職説明会は、熊本歯科衛生士専門学院、熊本歯科技術専門学校、九州看護福祉大学口腔保健学科の在校生ならびに既卒歯科衛生士を対象としたものである。参加人数は59人であった。

参加求人事業所は54件、資料のみ参加が２件の計56件で、昨年より参加求人事業所が10件程増加し、４階ホールに入りきらず、廊下にもブースを設ける事になった。

説明会開始の前に、伊藤学院長より求人事業所へ注意事項などの説明があった。その後学生が入場した。学生には、事前に事業所一覧と配置図が配布されており、それを見ながら興味のある事業所に向かい説明を受けた。

各事業所は、パソコン、パンフレット、チラシ等を使って医院の特徴をドクターやスタッフが学生に説明した。

学生にとっては、興味のある求人事業所の特徴を聞いたり、スタッフの雰囲気に触れたり、他院と直接比較できるメリットがあり、求人事業所は自院をアピールし、求人活動を行える有意義な機会であったと思われる。

チラシを使い自院をアピール

今年は予定時間より30分程長く説明会が行われ、学生は例年より多くの事業所の説明を聞いていた。

歯科衛生士不足、人材確保が厳しい現在の歯科業界において、この合同就職説明会が学生や求人事業所にとって有効になれば幸いである。

（厚生・医療管理　小林 聡）

お知らせ

年末年始の事務局休業のお知らせ

仕事納め：12月28日（水）午後５時・業務終了

年末・年始休業期間：12月29日（木）～１月３日（火）

仕事始め：１月４日（水）午前８時30分・業務開始

委員会報告

災害関連の議題に関心が集まる

― 九州各県医療管理担当者会 ―

厚生・医療管理

10月８日（土）午後２時より、佐賀市のホテルマリターレ創世において、九州各県医療管理担当者会議が開催された。本県より、宮井理事と池嶋が出席した。

塚本佐賀県歯専務理事の開会の辞に始まり、寺尾佐賀県歯会長より挨拶があった。

座長・副座長選出ののち、瀬古口日歯常務理事より日歯報告があった。歯科衛生士復職支援関係、歯科診療所における日頃からの医療安全に対する日歯の取り組み、医療事故調査制度研修会についてなどであった。

その後、協議に移った。

⑴　平成28年度各県医療管理関係事業計画及び予算

⑵　各県提出協議題

①災害時の身元確認や職員用の備蓄品　【福岡県】

②県警からの生前記録の入手　【福岡県】

③災害発生時における対応、マニュアル　【熊本県】

④災害発生時における緊急連絡網の確立の必要性　【熊本県】

⑤大規模災害対応の今後の課題【佐賀県】

⑥歯科衛生士復職支援に関する各県の対応　【長崎県】

⑦歯科衛生士の復職支援対策　【宮崎県】

⑧各県の感染症歯科診療連携および協力体制構築の現状　【沖縄県】

⑨HIV患者の診療受け入れ体制ネットワーク　【佐賀県】

⑩地域医療介護総合確保基金の活用　【大分県】

本会より２人参加

⑪SNS等への口コミ投稿　【宮崎県】

⑫消防用設備等点検・結果報告【大分県】

⑬かかりつけ歯科医の啓発・普及に対する取り組み　【佐賀県】

⑶　日本歯科医師会への質問・要望

①患者紹介ビジネスに対する日歯の対応　【長崎県】

②「歯科医業経営内容調査検討資料」の考察　【大分県】

③災害発生時における日歯会員としての歯科医師の行動規範の明文化　【熊本県】

④大規模災害を想定しての物資集積地の分散確保　【熊本県】

⑤消費税10％への日歯のスタンス、医療機関の行う高額の投資に係る消費税負担に関しての取り扱い　【宮崎県】

⑥控除対象外消費税　【鹿児島県】

今年は災害関連の協議が多く、積極的な意見・情報の交換があり、途中時間も気にされたが、次期開催県挨拶に続き、田中佐賀県歯副会長の閉会の辞をもって終了した。

（厚生・医療管理　池嶋 由希）

委員会報告

5人の講師により充実した講演会

― 口のリハビリテーション医科歯科連携インストラクター養成講習会 ―

総務・医療連携

10月10日（月）県歯会館にて口のリハビリテーション医科歯科連携インストラクター養成講習会が行われた。参加者は歯科医師・歯科衛生士198人、医師・看護師・言語聴覚士・管理栄養士・社会福祉士・介護福祉士・作業療法士・理学療法士・医療ソーシャルワーカーの107人と多数の人が参加し、４階ホールのみならず３階のサテライト会場も満員となった。

５人の講師の講演があり、栗原正紀医師（日本リハビリテーション病院・施設協会会長、長崎リハビリテーション病院理事長）からはJRATの活動報告があり、地域包括ケアのあるべき姿としての互助の精神の大切さを言われた。また、高齢者医療のあり方として多くの専門職種によるチーム医療の実現の必要性を説かれ、チーム医療の実現のための心得や医科歯科連携の基本を述べられた。口のリハビリとチームアプローチを例に挙げて口腔機能回復支援のための医科・歯科連携の拠点作りの必要性を言われた。

森脇美早医師（みどりヶ丘病院リハビリテーション科部長）からは老嚥（老人性嚥下機能低下）は嚥下障害の前段階であり、老嚥の時点で発見して嚥下障害を予防することが大事で、老嚥が悪化して嚥下障害に至ったものをサルコペニア嚥下障害ととらえ、摂食・嚥下障害の対策を述べられ、その中のひとつとして多職種協働の重要性や協働を進めるためのポイント等を説明された。

舘村卓歯科医師（TOUCH代表理事）からは、四足歩行動物とヒト（二足歩行）を比較し、咽頭が長くなり、軟口蓋が独立し、鼻咽腔閉鎖機能を獲得して「耳に聞こえる言葉」を持つようになった引き換えに誤嚥症状を持つようになったこと、乳児と成人での気管孔

多職種参加にて開催

（喉頭蓋谷）の位置の違い（咽頭の長さの違い）や嚥下の違いによる誤嚥リスクの相違を述べられた。また要介護者が歯ブラシやスプーンを口腔に挿入すると噛んだままになったり、舌で押し返したり舐めたり吸ったりする現象を原始反射の顕性化ととらえ、摂食咀嚼嚥下リハビリテーションを離乳にそった機能訓練や食形態の調整法を説明された。

糸田昌隆歯科医師（わかくさ竜間リハビリテーション病院診療部長）からは、嚥下の際の舌運動と舌骨下筋群の重要性を実際の咀嚼・嚥下動作の動画を交えて説明された。

若林秀隆医師（横浜市立大学付属市民総合医療センターリハビリテーション科）からは、医科歯科連携に役立つ栄養・リハ栄養の基礎知識として栄養状態の評価法（MNA®R-SF：６項目による評価法、）サルコペニアの診断法やリハ栄養（１日エネルギー消費量に蓄積量を加味した攻めの栄養管理）について説明された。

５人の講演を一度に聴講できることはなかなかなく、会場からもたくさんの質問があり、とても充実した講演会だった。

（総務・医療連携　三森 康弘）

荒尾市歯科医師会

多職種で在宅生活を見守る～多くの手・多くの視点・多くの気づき～

― 在宅連携室第13回事例検討会 ―

10月５日（水）に荒尾市在宅連携室第13回事例検討会が行われた。

今までの事例報告会は担当職種が単独で行った内容であったが、今回は、一人の患者の事例で、入院時から退院後在宅で医療・福祉の担当者が連携して見守っている症例を、各職種目線での対応及び問題点をそれぞれの担当者が発表する形式で行った。

まず、症例患者の入院経過・身体状況を荒尾市民病院の看護師から説明があり、在宅に帰すにあたり、問題点や不安要素の説明があった。それを踏まえて各職種別グループワークで「自分たちで何ができるか」を検討してもらった。職種別の発表は他の職種では気づかない視点があり、改めて多職種で連携を行う意義を感じるものであった。

それぞれの意見交換の後、実際に患者に関わっているケアマネージャー、訪問看護師、訪問リハビリ、薬剤師、歯科医師の立場から、具体的なアプローチ内容の説明があった。今回の事例検討会は歯科医師会担当で、田中みどり会員が、

100人を超える多職種が参加した

痰吸引回数を減らすために口腔ケアと口腔細菌検査を用いて肺炎関連細菌及び日和見細菌の減少を目的としたアプローチの結果が良い方向に向かった事が注目された。最後に在宅担当医の藤沢和久医師から本事例の在宅カンファレンスの状況報告と本日の事例検討会の総括があった。

この日は、100人を超える多職種が参加し、今後も荒尾市では在宅連携が進んでいく事が期待できると確信した。

（田中　文丸）

球磨郡歯科医師会

天気は悪かったが東京を堪能

― 会員研修旅行 ―

10月８日（土）から10日（月）までの３日間、塚本会長以下会員６名、東京での研修旅行を実施した。鹿児島空港から朝１便出発、東京到着後宿泊のストリングホテルに荷物を預け、早速築地市場に散策へ。天気はあいにくの雨。市場内で昼食の予定がどこも１時間以上の待ち時間で足元も悪いので断念。御茶ノ水駅付近で昼食後研修先のＧＣ本社へ。新製品の紹介や舌圧測定の体験等約２時間の研修を行った。その後ホテルへチェックインし、ホテル内の『チャイナシャドー』で、旨い中華料理を堪能した。翌日も雨の中、はとバスツアーにてスカイツリー等を観光、夕食は屋形船に乗り天ぷら等の料理を

ＧＣ本社で研修を行った

東京の夜景と共に頂いた。最終日は昼食をとり午後便で帰路についた。充実した３日間であった。

（秋山　喬、山村　礼二）

天草郡市歯科医師会

抜去歯牙に感謝

― 第58回歯牙供養祭 ―

10月15日（土）午後２時より天草市本渡の東光寺にて開催した。20数名が出席し、供養祭後の天歯学会の講師としてお招きした国立病院機構熊本医療センターの中島健歯科口腔外科部長にも出席していただいた。

青砥常務理事の司会のもと、山本会長の祭文奏上、住職読経、焼香と進行した。毎年のことだが、供養祭で祭文を聞くたびに身が引き締まる思いである。明日からの診療に向けて、気持ちも新たになった供養祭だった。

今年の祭文の一部を抜粋して紹介する。

『本日茲に、第58回天草郡市歯科医師会歯牙供養祭を執り行うに当たり、会員を代表して祭文を奏上致します。

私達の先達が、歯牙の重要性、歯の働きの大切さを天草の人々に訴える為に、むし歯供養祭を行い始め、本渡南公園招魂所に、『歯恩の碑』を建立し、毎年欠かす事無く、抜去歯牙の供養を営み、歯の健康の大切さを訴えて参りました。

・・・・・・・・・中略・・・・・・・・・

厳かに儀式をとりおこなう

一人の歯科医師として、又、歯科医師会としても地域住民の健康づくりや歯科保健、歯科医療に対する「啓発」「理解」を深めていく努力がまだまだ必要だと存じます。

ここに歯牙供養を機に、改めて会員一同、歯牙に対し感謝の念を捧げ、自然を愛し、人を愛し、歯を愛する歯科医師たらんと誓いを新たにし、私の祭文と致します。

「若し、歯牙の霊あらば、安らかに眠られよ」』

（松田　教裕）

「原因不明の歯痛」に求められる診断力

― 第53回天草歯科学会 ―

10月15日（土）近くの東光寺の本堂にて歯牙供養祭が執り行われた後に続けて天草プラザホテル２階オリーブホールで天草歯科学会が行われた。

今回は、講師に国立病院機構熊本医療センターの中島健歯科口腔外科部長をお招きして『原因不明の歯痛や顔面痛について』のタイトルで講演を頂いた。

我々歯科医師にとって「原因不明の歯痛」をどのように診断し治療を行うか、というのは判断を迷うところが多々ある。しかし筋・筋膜性歯痛、顔面痛は歯科以外では診断されにくいということや、労作性歯痛は心疾患を疑う必要性など、歯科の診断力が求められた。

その昔、歯痛の訴えで、その歯牙の抜歯を繰り返した結果、主訴のエリアに歯牙はなくなったのに疼痛だけは残った（ポリサージェリー）という（悲惨な）話を聴いた（読んだ）ことがある。このようなことを繰り返さないためにも、我々歯科医師は患者のため（自分のためにも）常に診断力の向上を求められているといえる。

診断力を身に付けることが大事

講演後は会場を変えて、懇親会が１次会、２次会と行われ、様々な事柄に話題の花が咲いた。

（内崎　祐一）

玉名郡市歯科医師会

２人の新入会員を迎えて

— 福寿会 —

10月28日（金）午後７時より料亭「山路」にて福寿会が開催された。この会は26年前に発足して以降毎年開催している。その年に還暦を迎える先生方を新入会員としてお迎えし、長寿のお祝いを行うと共に、長年にわたり歯科医師会発展へのご尽力に感謝の意を表す場として宴席を設けている。発足当時は５人ほどの会であったが、今では人数も増えてにぎやかになり、今年度は新入会員が２人増えて25人となった。25人のうち17人が参加、執行部と合わせて21人でお祝いした。

会が始まる前に参加者全員で記念写真を撮った。まず森会長の挨拶があり、次に新入会の春野会員、犬束会員に節目に当たってのお気持ちを１言ずつ頂いた。続いて福寿会を代表して杉尾会員のお祝いの挨拶の後宴会が始まった。宴会ではおいしい料理とお酒で話が弾み、あちこちで笑い声が絶えず、楽しい時を過ごした。最後に来年も皆さんが元気に参加できることを祈念して増田憲元会員の万歳三唱でお開きとなった。

参加者全員で記念撮影

（永廣　有伸）

新入会員 NEW

①今もっとも関心のあることを教えてください。
②自分が希望する歯科診療とはどのようなものだとお考えですか。
③他の歯科医院にはない自分の医院の特色を教えてください。
④今後の抱負は何ですか。

第１種会員

平良　幸治
（タイラ　コウジ）

菊池郡菊陽町光の森4-3480-1

ひかり矯正歯科

①歯科医院経営
②患者様ひとりひとりに合った最善の治療を提供し続け、それにより、仕事のやりがいを見いだし、自医院で働くスタッフの物心両面を充実させ自分と自分の家族を幸せにする。
③私は、日本矯正歯科学会の認定医を取得しているので不正咬合に対して最善の治療を提供できると思います。
④矯正歯科治療を通じて、一人でも多くの患者様の最高の笑顔と口腔機能の向上をサポートしていきたいです。

鎌田　政彦
（カマダ　マサヒコ）

宇城市小川町江頭229-2

鎌田歯科クリニック

①マイクロスコープの有効活用について
②むし歯、歯周病にならないために歯科医院に通う予防型歯科医療
③・マイクロスコープ、ＣＴ等の設備
　・院内のバリアフリー化
　・予防型歯科医療
④生涯ご自分の歯で食事ができる幸せを一人でも多くの方に感じていただけるようサポートしていきます。

第３種会員

千原　理絵
（チハラ　リエ）

阿蘇郡南阿蘇村河陰3790-1

さくら歯科

4年ぶり大会1勝も、準決勝敗退

― 第69回九州歯科医学大会野球大会 ―

10月23日（日）、福岡市の香椎浜公園野球場に於いて、第69回九州歯科医学大会野球大会が開催された。試合に先立ち開会式で、物故者への黙祷ならびに永年功労表彰が行われた。熊歯からは、山口貴久会員（10年）、田中弥信会員（20年）、河合隆一会員（30年）がそれぞれ表彰された。尚、1回戦は佐賀県に勝利したが、準決勝で福岡県に敗れた。

1回戦

打線爆発、山田完投勝利。熊歯4年ぶり初戦突破							
佐賀県	0	0	0	0	1	1	時間切れ
熊　歯	1	1	0	4	1	7	コールド

（佐）小林、中川ー山口、江口
（熊）山田ー田中弥
▽本塁打　大鹿（熊）
▽三塁打　大鹿（熊）、古川（佐）
▽二塁打　藤瀬（佐）

初回に、1番大鹿が遊失で出塁、牽制悪送球で無死三塁とすると、2番福井の右前適時打で1点を先制した。続く2回には、一死満塁から、福井の一塁ゴロで1点を追加、4回には大鹿の中越え三塁打、田中弥の右前適時打に守備の乱れなどで4点を奪って試合を決定づけた。試合は、時間切れ寸前に大鹿の中越え本塁打が出た。この時点で大会規定の90分となり試合終了となった。尚、山田は5回に1点を失ったが、それ以外は全く相手を寄せ付けなかった。

準決勝

熊　歯	0	0	0	0	0	0	5回
福岡県	0	4	3	0	X	7	コールド

（熊）山田、河合、樋口、上田ー田中弥、渡辺洋
（福）湯浅、川村ー盛根
▽三塁打　湯浅（福）
▽二塁打　盛根2（福）、宗（福）

山田は、2回に一死二・三塁のピンチを招いた所で負傷降板となった。緊急登板となった河合であるが、相手に行った流れを止めることが出来ずに、長短打でこの回4点を失った。（2点は山田の自責点）さらに、3回には無死一・三塁からの重盗や投前犠打等で、3点を追加されて試合を決定づけられた。打線は4回に大鹿が左前安打を放ったが、それ以外は相手失策の走者のみであった。

参加者：菅原、藤本、上田、有田、中山、河合、渡辺洋、右山、吉崎、井口、田中弥、井上、西、井野、田中勝、福井、西山、宮本、椿、山口、樋口、宇治、岡村、渡辺裕、江頭、山田、大鹿、岡、久保

謝　辞：会場まで応援に来て頂きました浦田会長はじめ執行部ならびに事務局の方々にこの場をお借りして厚くお礼を申し上げます。

（井上 真樹）

H.28.12

会　務　報　告

自　平成28年９月27日
至　平成28年10月23日

会務報告

所管	日付	摘要	出席者
総　務	９月27日	労働保険事務組合監査及び労働保険料算定基礎調査 （１）事業所算定基礎調査３件（２）労働保険事務組合監査	
		第３回熊本地震見舞金・義援金給付検討臨時委員会 （１）会員診療所・自宅の罹災証明書に基づく被害状況一覧 （２）被害程度に基づく見舞金・義援金の一人当たり支給額の設定	小島副会長、久々山・西野監事、渡辺専務理事、八木常務理事
	29日	第17回理事会 【承認事項】 （１）新入会員の承認 （２）関係機関・団体からの役員等の推薦依頼 （３）名義後援使用及び協賛依頼　ほか 【議　　題】 （１）日本スポーツ振興センターからの本会ホームページへのリンク依頼 （２）平成28年度「九州」「中国・四国」地区歯科医師会役員連絡協議会 （３）創立110周年記念事業実施に伴う役割分担及びスケジュール　ほか	浦田会長他冨屋理事を除く全役員
	30日	第４回県地域医療構想検討専門委員会（熊本市医師会館）	浦田会長
	10月１日	月次監査 （１）８月末会計現況監査	久々山・西野監事
		勤務歯科医師研修会打合せ （１）ＵＫデンタルとの打合せ	渡辺専務理事
	３日	110周年記念事業表彰部小部会 （１）表彰要綱の確認（２）表彰該当者の範囲（３）知事表彰・教育委員会表彰　ほか	渡辺専務理事、八木常務理事、林副学院長、瀬井国保理事
	４日	熊本地震に係る歯科衛生士会との合同慰労会（熊本市）	浦田会長他役員等17名、歯科衛生士会20名
	５日	第780回支払基金幹事会（支払基金）	浦田会長
		第30回常務理事会 （１）新入会員の承認（２）平成28年度熊本地震における歯科医療支援に関する協議会の設置 （３）３月開催の臨時代議員会までのスケジュール　ほか	浦田会長他宮坂副会長を除く常務理事以上全役員
	８日	勤務歯科医師研修会 （１）歯科界の現状－勤務歯科医に伝えたいこと（２）医療事故・苦情への本会の対応 （３）医科歯科連携事業　受講者15名	浦田会長、渡辺専務理事、牛島常務理事、宇治理事、岡田委員長
	９日	第５回全国歯科医師会野球大会懇親会（アルカディア市ヶ谷）	渡辺専務理事
	10日	岡山県歯会会長義援金伝達	浦田会長
	12日	第１回県後期高齢者医療運営協議会（県後期高齢者医療広域連合）	田上常務理事
	13日	グループ補助金説明会（学院校舎） 受講者：33名	小島副会長、八木常務理事、宮井理事
		訪問歯科診療用機器整備に係る説明会 参加者：６名	宮坂副会長、宇治理事
	14日	吉永公認会計士とのグループ補助金打合せ	小島副会長、八木常務理事
	15日	第42回九州各県事務職員研修会（１日目）（宮崎県歯会館）	澤田事務局長他４名
		社会歯科学会秋期研修会（１日目）（山形県歯会館）	浦田会長、牛島常務理事
	16日	社会歯科学会秋期研修会（２日目）（山形県歯会館）	浦田会長、牛島常務理事
		第42回九州各県事務職員研修会（２日目）（宮崎県歯会館）	澤田事務局長他４名
		第69回九州歯科医学大会第61回剣道大会壮行会（熊本市）	渡辺専務理事
	17日	益城町教育長に日学歯義援金伝達（益城町交流情報センター）	浦田会長、大林理事
		在宅歯科診療器材整備事業打合せ （１）申請者選定基準	宮坂副会長、宇治理事
	19日	グループ補助金申請のための書類審査会 参加者：22名	宮井理事
		第31回常務理事会 （１）新入会員の承認（２）中規模県歯科医師会連合会のアンケート （３）くま歯キャラバン隊の研修メニューの見直し　ほか	浦田会長他宮坂副会長・牛島常務理事を除く常務理事以上全役員
		第１回熊本地震に係る災害医療提供体制検討委員会（県庁）	牛島常務理事
	20日	110周年記念事業広報部会 （１）110周年記念誌（２）県歯科医師会の歩み「航跡」（３）110周年記念事業	宮坂副会長、渡辺専務理事、松本・竹下理事
	21日	第23回日本歯科医学会総会（至：23日）（福岡国際会議場）	浦田会長、小島副会長
		第23回日本歯科医学会総会会頭招宴（ホテル日航福岡）	浦田会長、小島副会長
	22日	九地連役員会（福岡県歯会館）	浦田会長
		第69回九州歯科医学大会受付事務職員説明会（福岡国際会議場）	村上課長補佐他３名
		第69回九州歯科医学大会（福岡国際会議場） 本県参加者：26名（会員20名、スタッフ６名）	浦田会長、渡辺専務理事
		熊本地震への災害派遣に関する報告会（福岡国際会議場）	浦田会長
	23日	第69回九州歯科医学大会厚生行事（福岡県内各所） 野球、剣道、テニス、ゴルフ、ボウリング、囲碁	浦田会長、小島・中嶋副会長、渡辺専務理事他４役員
		第23回日本歯科医学会総会ランチョンセミナー（福岡国際会議場）	牛島常務理事
学　術	10月１日	九州各県学術担当者会（福岡県歯会館）	井上理事、堀川委員長
	21日	学術委員会 （１）九州各県学術担当者会報告（２）日歯生涯研修DVDセミナー及び会員発表 （３）H29年度事業計画	井上理事、堀川委員長他４委員
社会保険	９月28日	宮原支払基金本部歯科専門役講演会（支払基金）	浦田会長、中嶋副会長、田中・椿理事
	29日	保険集団的個別指導（KKRホテル熊本）	田中理事
	10月１日	九州各県社会保険担当者会（大分県歯会館）	田中・椿理事、清水委員長
	５日	レセプトチェックセンター（荒尾市） 相談者：０名	田中理事
	13日	保険個別指導（KKRホテル熊本）	椿理事、渡辺・舩津委員
	17日	社会保険指導者研修会（東京・日本教育会館）	田中・椿理事

所管	日付	摘要	出席者
地域保健	9月29日	らくのうマザーズ事業所健診（菊池市） 健診者数：5名	高橋裕輔会員
	10月1日	九州各県地域保健及びセンター・介護担当者会（宮崎県歯会館）	赤尾理事、二宮委員長
		上益城郡三師会研修会（上益城郡医師会館）	田上常務理事
	7日	センター・介護、地域保健合同委員会 （1）平成29年度九州各県地域保健担当者会	赤尾理事、二宮委員長、宮本副委員長
	8日	地域保健委員会 （1）各郡市地域保健担当者会の開催（2）歯の祭典の開催 （3）笑顔ヘルCキャンペーン中央イベントの開催　ほか	赤尾理事、二宮委員長他全委員
	17日	第2回笑顔ヘルCキャンペーン打合せ （1）平成28年度笑顔ヘルCキャンペーン中央イベント（2）反省会日程	宮坂副会長、田上常務理事、大林・竹下・赤尾理事
広　報	10月1日	九州各県広報担当者会	浦田会長、宮坂副会長、渡辺専務理事、八木常務理事、竹下理事、岩崎委員長他全委員
	6日	広報小委員会 （1）会報11月号編集・第1校校正（2）九州各県広報担当者会の反省	竹下理事、岩崎委員長他3委員
	18日	広報小委員会 （1）会報11月号第2校校正（2）今後の委員会等日程	竹下理事、岩崎委員長他3委員
	20日	笑顔ヘルC写真コンクール審査会 応募総数：121点	竹下理事
学校歯科	10月20日	県PTA共済審査委員会（県総合福祉センター）	西野監事
医療対策	10月17日	医療対策委員会 （1）事例報告検討（2）九州各県医療安全担当者会 （3）医療事故調査制度研修会　ほか	小島副会長、岡田委員長他全委員
センター・介護	10月1日	第33回日本障害者歯科学会総会および学術大会シンポジスト打合せ （埼玉県・ソニックシティー）	松本理事
		九州各県地域保健及びセンター・介護担当者会（宮崎県歯会館）	平井委員長、規工川副委員長
	2日	第33回日本障害者歯科学会総会および学術大会（埼玉県・ソニックシティー）	松本理事
	7日	センター・介護、地域保健合同委員会 （1）平成29年度九州各県地域保健担当者会	松本理事、平井委員長、規工川副委員長
	14日	センター・介護委員長会 （1）平成29年度九州各県地域保健担当者会（2）平成28年度委託事業の日程及び内容	松本理事、平井委員長他全委員
厚生･医療管理	9月27日	玉名郡市健康診断（玉名地域保健医療センター）	
		厚生・医療管理小委員会 （1）就業規則見直し（2）医療管理学会九州支部総会・学会 （3）九州各県担当者会議　ほか	牛島常務理事、宮井理事、工藤委員長他1委員
	10月1日	八代健康診断（八代市医師会健診検査センター）	
		九州各県厚生担当者会（長崎県歯会館）	牛島常務理事、工藤委員長
	7日	菊池郡市健康診断（菊池郡市医師会立病院）	
	8日	八代健康診断（八代市医師会健診検査センター）	
		九州各県医療管理担当者会（佐賀県・ホテルマリターレ創世）	宮井理事、池嶋副委員長
	12日	厚生・医療管理委員会 （1）九州各県担当者会議（2）合同就職説明会（3）就業規則見直し　ほか	牛島常務理事、宮井理事他全委員
	13日	菊池郡市健康診断（菊池郡市医師会立病院）	
	14日	菊池郡市健康診断（菊池郡市医師会立病院）	
総務･医療連携	10月7日	県医療・保健・福祉連携学会第2回企画委員会（テルウェル熊本ビル）	小島副会長
	10日	口のリハビリテーション医科歯科連携インストラクター養成講習会 参加者：305名	浦田会長、牛島常務理事、宇治理事他全委員
		第1回医科歯科病診連携推進事業（回復期）運営協議会 （1）H28年度事業計画（2）回復期病院のデータ収集	牛島常務理事、宇治理事、三森委員長、神崎副委員長
学　院	9月28日	学院研修旅行（至9月30日）（台湾） 第51期生：49名	伊藤学院長
	10月1日	学生合同就職説明会打合わせ	宮井理事、池嶋副委員長他1委員
	2日	学生合同就職説明会 参加事業所：56事業所　参加者：59名（延べ289名）	伊藤学院長・林副学院長、宮井理事、町田・小林・牧委員
	7日	社会福祉施設臨地実習指導担当者反省会	伊藤学院長、牧・林副学院長、弘中教務部長
	12日	第1回学院入学試験委員会 （1）平成29年度推薦入学試験実施要項	浦田会長、伊藤学院長、小島・中嶋・宮坂副会長、渡辺専務理事、牧・林副学院長、弘中教務部長
	22日	学院高校推薦・指定校推薦入学試験 受験者：42名	伊藤学院長、中嶋・宮坂副会長、林・牧副学院長、弘中教務部長
国保組合	9月27日	全協職員研修会（東京・全国町村会館）	宮﨑係長
		第3回国保理事会 （1）高齢者健康対策事業（2）個人番号取得	浦田理事長他全役員
	10月15日	全歯連第1回通常総会（東京ディズニーランドホテル）	浦田理事長
	17日	社会保険指導者研修会（東京・日本教育会館）	上野副理事長

会員専用グループ保険のご案内

随時加入募集中

グループ保険　Ⅰ 団体定期保険　Ⅱ 新医療保障保険団体型

Ⅰ 団体定期保険

充実した保障内容
合理的な 死亡保障 の確保に！

最高3000万円の保障（無診査）が70才まで新設されました

保険金額の増減は毎年自由に変更できます

① 割安な保険料で高額保障
災害に起因する死亡の場合は、災害保険金が上乗せされます

② 最高75歳まで継続更新可能

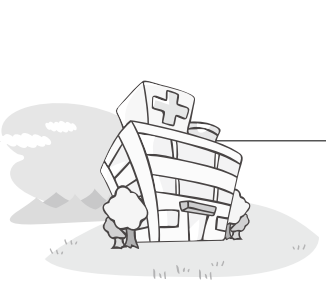
③ 障害給付金･高度障害保険金も準備されます

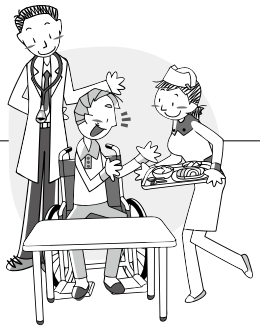
35年以上の長期にわたり、熊本県歯科医師会で会員のために継続している福利厚生制度です。

随時加入できます

Ⅱ 新医療保障保険団体型

ニーズの高い病気入院の保障が
低価格で プラスできます！





① 疾病・傷害、いずれも保障の対象！

② 入院給付金は１日目からお支払します

③ 1入院60日限度　通算1,000日分まで保障

本人プランは入院1日15,000円まで保障

④ 最高89歳まで継続更新可能

⑤ 配偶者･お子様もご加入可能

この保険は当グループ内で１年ごとに収支計算を行ない **剰余金が生じたときは配当金として加入者全員に還元**しています。

お問い合わせ

熊本県歯科医師会 事務局　担当：奥村　TEL096-343-8020

PREMIST
大江ザ・レジデンス
OE THE RESIDENCE

熊本県歯科医師会会員の皆様へ

ダイワハウス分譲マンション「プレミスト大江ザ・レジデンス」のご案内

熊本地震で被害に遭われた方に心よりお見舞い申し上げます。新生活を応援します。

外観（平成28年8月撮影）

「プレミスト大江ザ・レジデンス」共通物件概要●物件名称／プレミスト大江ザ・レジデンス●所在地／熊本県熊本市中央区大江3丁目1-10（地番）●交通／九州産交バス「大江霊園」バス停徒歩1分、熊本市電「九品寺交差点」電停徒歩11分●用途地域／近隣商業地域・第2種住居地域●地目／宅地●建ぺい率／64.67%●容積率／223.31%●敷地面積／6,910.78㎡●建築面積／3,345.19㎡●建築延床面積／19,685.64㎡●構造・規模／鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）・地上14階建●建築確認番号／第BVJ-SH-10-0203号（平成26年6月27日）●総戸数／182戸（賃貸、グランスイート1戸・コミュニティプラザ1戸・管理事務室1戸）●駐車場／55台（平面式1台・自走式54台）（月額使用料：5,000円～14,000円）、別途来客用駐車場2台●自転車置場／123台（平面式5台・ラック式118台（月額使用料：100円～400円）、別途来客用自転車置場スペース）●バイク置場／9台（月額使用料：700円～1,000円）●分譲後の権利形態／土地：各専有面積割合による敷地利用権（所有権）の共有、建物：＜専有部分＞区分所有権、＜共用部分＞各専有面積割合による共有●管理形態／入居後、管理組合を設立していただき、組合と大和ライフネクスト株式会社との間で管理委託契約を締結していただきます。●建物竣工予定／平成28年1月完成済●入居予定／即入居可●事業主・売主／大和ハウス工業株式会社 福岡支社マンション事業部●販売代理／ニース不動産株式会社 〒812-0011 福岡県福岡市博多区博多駅前2丁目19番17号トーカン博多ビル5階 TEL 092-433-1789 宅地建物取引業者免許番号・国土交通大臣(2)第8045号、（公社）福岡県宅地建物取引業協会会員、（公社）東京都宅地建物取引業協会会員、（公社）全国宅地建物取引業保証協会会員●管理会社／大和ライフネクスト株式会社熊本支店●設計・監理／株式会社鴻池組大阪本店一級建築士事務所●施工／株式会社鴻池組九州支店●建物内モデルルーム615号室、1110号室は今回販売対象住戸ではございません。

【第1期～第2期13次物件概要】●販売戸数／33戸●販売価格（税込）／3,080万円（1戸）～10,000万円（1戸）●最多販売価格帯／3,300万円台・3,700万円台（各4戸）●間取り／2LDK・2LDK+S（納戸）・3LDK・4LDK●専有面積／65.28㎡～137.59㎡（トランクルーム面積0.40㎡・0.45㎡・0.46㎡含む）●バルコニー面積／12.50㎡～60.76㎡●アルコーブ面積／3.23㎡～6.05㎡●管理費（月額）／6,850円～14,450円●修繕積立金（月額）／5,880円～12,380円●インターネット使用料（月額）／1,296円●管理準備金（一括）／6,850円～14,450円●修繕積立基金（一括）／411,600円～866,600円●先着順申込受付場所／大江レジデンスサロンお申込につきましては、認印、本人確認書類（運転免許証等）、所得証明書（給与所得者の場合は平成26年・27年分の源泉徴収票、確定申告をされているお方は過去3年分の確定申告書）が必要です。

【第3期物件概要】●販売戸数／3戸●販売価格（税込）／3,990万円（1戸）～4,990万円（1戸）●間取り／4LDK（3戸）●専有面積／81.21㎡～100.06㎡（トランクルーム面積0.40㎡・0.45㎡・0.46㎡含む）●バルコニー面積／14.60㎡～34.06㎡●アルコーブ面積／3.69㎡～4.69㎡●管理費（月額）／8,530円～10,510円●修繕積立金（月額）／7,310円～9,010円●インターネット使用料（月額）／1,296円●管理準備金（一括）／8,530円～10,510円●修繕積立基金（一括）／511,700円～630,700円●312号室は平成28年3月よりモデルルームとして、使用しております。●登録申込受付期間／平成28年11月23日（水・祝）10:00～12:00※同一住戸に複数の登録が重複した場合は、同日13:00より抽選を行います。●登録申込受付場所／大江レジデンスサロン●広告制作年月日／平成28年11月7日●取引条件有効期限／平成28年12月31日※お申込につきましては、認印、本人確認書類（運転免許証等）、所得証明書（給与所得者の場合は平成26年・27年分の源泉徴収票、確定申告をされている方は過去3年分の確定申告書）が必要です。

（お客様の個人情報の利用目的について）弊社は個人情報保護法を遵守し、弊社または弊社グループ企業が行う次の事業【※】に関するご案内・ご提案、契約の締結・履行、アフターサービスの実施、お客様への連絡・通信、新しい商品・サービスの開発、およびお客様に有益と思われる情報の提供などのために、お客様の個人情報を利用させていただきます。【※】住宅、リフォーム、集合住宅、マンション、商業店舗開発、建築、不動産分譲、不動産仲介、環境・エネルギー、損害保険代理店、ホテル、インテリアなどの各事業

建物内モデルルーム公開中

受　付	大江レジデンスサロン（プレミスト大江ザ・レジデンス202号室） 熊本市中央区大江3丁目1-72 ※駐車場をご用意しております。

事前にお電話又はWebにてご予約いただきますとご案内がスムーズです。

※掲載地図は略図であり実際とは多少異なる場合があります。省略された道路・施設がありますので予めご了承下さい。

（事業主・売主）
大和ハウス工業株式会社　福岡支社 マンション事業部
福岡市博多区上牟田2丁目11番24号 〒812-0006 Tel 092-473-5160 Fax 092-473-5158
建設業許可番号 国土交通大臣許可（特-27）第5279号 宅地建物取引業者免許番号・国土交通大臣（14）第245号
（公社）福岡県宅地建物取引業協会会員／（一社）不動産協会会員／（一社）日本木造住宅産業協会会員／（一社）日本ツーバイフォー建築協会会員／（一社）プレハブ建築協会会員／（一社）九州不動産公正取引協議会加盟
www.daiwahouse.co.jp

Daiwa House
大和ハウスグループ

大江レジデンスサロン
0120-855-520
営業時間／10:00～19:00 定休日／火曜日・水曜日（祝日除く）
ダイワ 大江　検索　http://dhma.jp/oe/

熊本県歯科医師会会員の皆様へ

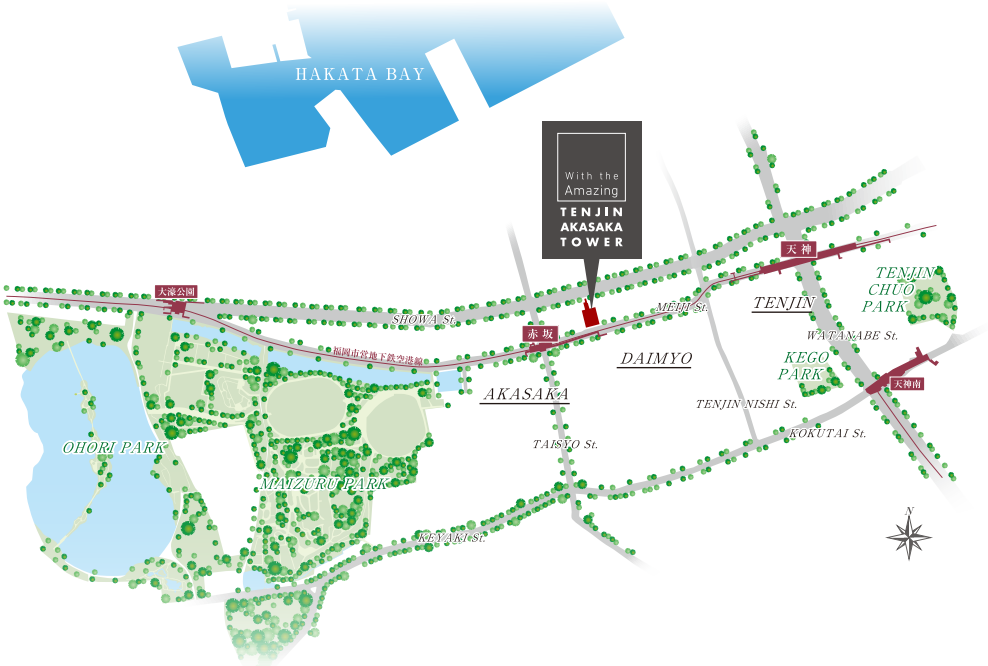
ダイワハウスの分譲マンション「プレミスト天神赤坂タワー」のご案内

ダイワハウスの分譲マンション **予告広告**

本広告を行い取引を開始するまでは、契約又は予約の申込みはお受け出来ませんのでご了承下さい。又、申込みの順位の確保に関する措置は講じられませんので予めご了承下さい。
平成29年4月下旬販売開始予定

With the Amazing
TENJIN AKASAKA TOWER

福岡市営地下鉄空港線赤坂駅徒歩2分※1、天神エリア徒歩5分※2。
福岡の都心に、エリア最高層※3となるタワーレジデンス
『プレミスト天神赤坂タワー』が誕生します。



福岡市営地下鉄 空港線「赤坂」駅 徒歩2分（約110m）

プレミスト天神赤坂タワー 始動［資料請求受付中］

<予告物件概要>●物件名称／プレミスト天神赤坂タワー●所在地／福岡県福岡市中央区大名2丁目249番1（地番）●交通／福岡市営地下鉄空港線「赤坂」駅徒歩2分、西鉄バス「大名二丁目」バス停徒歩1分●用途地域／商業地域●地目／宅地●敷地面積／3,135.91㎡●構造・規模／鉄筋コンクリート造一部鉄骨造地上24階建●建築確認番号／第ERI 16037572号（平成28年9月16日付）●総戸数／220戸（別途、管理事務室1戸、他）●駐車場／126台（タワーパーキング126台／月額使用料：未定）●自転車置場／220台（平面式20台・ラック式200台／月額使用料：未定）●バイク置場／16台（内、ミニバイク区画10台／月額使用料：未定）●管理会社／大和ライフネクスト株式会社九州支社●管理形態／管理組合と管理会社との間で管理委託契約を締結●分譲後の権利形態／敷地は共有、建物は区分所有●建物竣工予定／平成30年10月下旬●入居（引渡）予定／平成31年2月下旬●事業主・売主／大和ハウス工業株式会社 福岡支社マンション事業部●設計・監理／設計：株式会社大林組大阪本店一級建築士事務所／監理：株式会社大林組九州支店一級建築士事務所●施工／株式会社大林組九州支店●販売戸数／未定※予告広告をする時点において、すべての予定販売戸数を一括して販売するか、又は数期に分けて販売するかは確定しておりません。当該予告広告以降に行う本広告において、販売戸数をお知らせ致します。尚、販売戸数が未定のため専有面積及び、バルコニー面積等は今後供給予定の全住戸についてのものです。●販売価格（税込）／未定●最多販売価格帯（税込）／未定●間取り／1LDK・2LDK・3LDK・4LDK●住居専有面積／53.54㎡～187.50㎡●バルコニー面積／3.95㎡～28.25㎡●サービスバルコニー面積／4.10㎡～5.49㎡●アルコーブ面積／1.45㎡～3.69㎡●管理費（月額）／未定●管理準備金（引渡時一括）／未定●修繕積立金（月額）／未定●修繕積立基金（引渡時一括）／未定●販売開始予定／平成29年4月下旬●広告制作日／平成28年11月8日
※1 福岡市営地下鉄 空港線「赤坂」駅（徒歩2分／約110m）　※2 天神西交差点（徒歩5分／約340m）徒歩所要時間については80mを1分として、端数を切り上げたものです。
※3「エリア最高層」とは、福岡市中央区大名一丁目・二丁目における平成元年以降建築された民間分譲マンションにおいて最高層となります。（平成28年8月現在 住宅流通新報社調べ）　※掲載の地図は概略図のため、省略している道路、施設等があります。※地図の情報は平成28年9月現在のものです。

Daiwa House
大和ハウスグループ

［事業主・売主］
大和ハウス工業株式会社
福岡支社 マンション事業部
福岡市博多区上牟田 2丁目11番24号 〒812-0006 Tel 092(473)5160 Fax 092(473)5158
●宅地建物取引業者免許番号-国土交通大臣(14)第245号●建設業許可番号-国土交通大臣許可(特-27)第5279号
●(公社)福岡県宅地建物取引業協会会員●(一社)不動産協会会員●(一社)日本木造住宅産業協会会員
●(一社)日本ツーバイフォー建築協会会員●(一社)プレハブ建築協会会員●(一社)九州不動産公正取引協議会加盟
www.daiwahouse.co.jp

■お問い合わせは「プレミスト天神赤坂タワー」プロジェクト準備室
0120-220-113
営業時間／10:00～19:00（土・日曜日・祝日定休）
http://dhms.jp/tenjin-akasaka/

Kumamoto Prefecture Dentistry Medical Association Report
December 2016 No.726

笑顔ヘルC 8020運動からはじめる

1 主な行事予定 January

4日(水)	事務局仕事始め
5日(木)	第36回常務理事会
7日(土)	糖尿病・歯周病医療連携研修会
14日(土)	医療管理講演会
18日(水)	第37回常務理事会
22日(日)	県医療・保健・福祉連携学会
25日(水)	第21回理事会
28日(土)	新入会員研修会(施設基準届出に係る研修会)
29日(日)	社会保険講演会

©2010 熊本県くまモン #K6356

熊本県歯科医師会
安心・安全歯科医療推進制度

編集者のつぶやき

去る10月1日に九州各県広報担当者会が開催されました。九州8県持ち回りで今年は熊本県主催なので私たちがお迎えする側です。遠方から来られる委員の方々に失礼がないよう緊張しつつ会場に案内しました。会議が始まると発言や質問が集中したのはやはり広報誌の内容や作成に関することでしたね。どの県も限られた予算の中で出来るだけ内容を充実させようと試行錯誤されています。少しおおげさですが産みの苦しみはどこも同じなんだなと私たちも勇気づけられました。夜の懇親会はマジックショーまで飛び出す盛り上がりようで、お互い仲間意識を強く感じられた楽しいひとときでした。偶然にも隣の席の大分の方は前回の熊本の担当者会、つまり8年前に私が市内を案内した事があるらしく(お互いすっかり忘れていました。)

懐かしさで胸が一杯になりました。本年度の会報は地震の影響で明るい話題が少なかったのですが、頑張れ熊本!来年は復興の年です!! 私たち広報委員も現状に甘んじることなく、会員の皆様に興味を持って読んでいただけるような誌面作りをしていきたいと思います。これからも熊歯会報をよろしくお願いいたします。 (I・K)

■発行日/2016年12月5日発行 ■発行人/浦田 健二
■発行所/一般社団法人 熊本県歯科医師会
〒860-0863 熊本市中央区坪井2丁目4番15号
TEL/096-343-8020 FAX/096-343-0623
URL/http://www.kuma8020.com
■印刷所/コロニー印刷